

宝塚大学

2018（平成30）年度

自己点検評価報告書

2019年6月

宝塚大学

自己点検・評価委員会

[2018年度 自己点検評価報告書]

< 目 次 >

1. 法人・大学の概要	
(1) 建学の精神、教育理念、大学教育の目的等	1
(2) 学校法人の沿革・設置する学部・学科等	2
(3) 学生数等の状況	4
(4) 大学・教育研究組織（委員会組織等を含む）	6
(5) 経営改善計画における点検・評価	11
2. 学修と教授	
(1) アドミッション・ポリシーに沿った学生の受け入れ ※入試の受入方法、選考内容、定員管理などを含む	16
(2) カリキュラム・ポリシーに沿った教育課程の実施状況	17
(3) ディプロマ・ポリシーに沿った卒業・修了認定の実施状況	22
(4) キャリア教育の実施状況	24
(5) 国家試験の合格実績	24
(6) 点検・評価	25
3. 教育研究活動	
(1) 教員の研究活動	27
① 公的研究費（科研費等）のコンプライアンス教育	27
② 科研費等・学長裁量経費の実施状況	27
③ 研究倫理審査状況	30
④ 大学紀要の発行	30
(2) 点検・評価	31
4. 学生支援	
(1) 学生支援の主な取組み （学生相談室やチューター制度、学内奨学金等による支援）	32
(2) 健康相談・メンタルケア	33
(3) 学生自治会、サークル等のクラブ活動	33
(4) 保護者対象の教育懇談会	34
(5) 留学生支援の体制	34
(6) 点検・評価	34

5. キャリア支援体制と卒業生の進路状況	
(1) 学部生・大学院生・留学生へのキャリア支援	35
(2) 2018年度卒業生の進路状況と就職先	35
(3) 点検・評価	36
6. 図書館の整備と利用状況	
(1) 図書資料の所蔵状況と施設・設備と利用状況	37
(2) 点検・評価	38
7. 施設・設備等	
(1) 施設・設備、学生生活環境の改善・整備等	39
(2) 点検・評価	39
8. 危機管理体制	
(1) 防災体制・安全対策・危機管理体制	40
(2) 点検・評価	40
9. 広報活動	
(1) 主な広報活動	41
(2) 点検・評価	41
10. 地域社会・地方自治体との連携活動・社会貢献	
(1) 各キャンパスの取組みと活動実績	42
(2) 点検・評価	44
11. 管理運営体制・自己点検評価体制・大学評価審議会	
(1) 管理運営体制	45
(2) 自己点検評価体制	45
(3) 大学評価審議会	46
(4) 点検・評価	47
12. 巻末資料	
・ 学内委員会活動の取組み	
・ 地域社会・地方自治体との連携活動・社会貢献（取組み写真）	

1. 法人・大学の概要 [2018年5月1日]

(1) 建学の精神、教育理念、大学教育の目的等

① 建学の精神 「芸術と科学の協調」

「本学は、人間形成の一環として、芸術・科学に関する学問を素地とし、芸術的体験を通じて、情操の陶冶につくすとともに、科学の理解力と豊かな感性・創造性・実践力を育成し、更に将来に対する深い洞察力の涵養により、生活文化の向上と産業社会の発展に貢献し、国際社会に対応し得る人材の育成を図ります。」

② 教育理念 「人間の『生きる力』を支える、心に働きかける芸術と看護教育」

[豊かな感性を持つ]

自然の美や芸術とともに、人の心や気持を感じることができる人間を育成する。

[深い理解力を持つ]

さまざまな学問を学ぶとともに、よく考えることを通じて深く理解できる人間を育成する。

[高い実践力を持つ]

感性と理解力を活用して、課題に取り組み実践していくことができる人間を育成する。

③ 大学の目的 (宝塚大学 学則 第1条 (目的))

本学は教育基本法及び学校教育法の定めるところにより、美術、デザイン、芸術情報及びメディア芸術に関する理論及び表現、並びに看護・保健に関する専門の学術について深く教授研究し、それらに関する高度で専門的な職業能力を有する人材を育成することを目的とする。

④ 教育研究上の目的 (宝塚大学 学則 第2条の2 (学部、学科の目的))

大学	
造形芸術学部 制作力創造学科 (旧アート・デザイン学科)	美術及び産業デザインに関する基礎的教育を施すとともに、それらの分野に属する芸術領域に関する理論及び表現について、深く教育研究し、それらに関する高度で専門的な職業能力を有する人材を育成することを目的とする。
造形芸術学部 想像力創造学科 (旧メディア・デザイン学科)	美術及びメディア・デザインに関する基礎的教育を施すとともに、それらの分野に属するさまざまな領域に関する理論及び表現について、深く教育研究し、それらに関する高度で専門的な職業能力を有する人材を育成することを目的とする。
看護学部 看護学科	看護・保健の職務の実践に必要な知識、技術及び能力と幅広い教養を修得し、保健・看護・医療の向上に寄与する人材を育成することを目的とする。
東京メディア芸術学部 メディア芸術学科 (旧 東京メディア・コンテン	美術及びメディア芸術に関する基礎的教育を施すとともに、マンガ、アニメーション、ゲーム、イラストレーション、コンテンツデザイン及び映像に関する理論及び表現について、

ツ学部 メディア・コンテンツ 学科)	深く教育研究し、それらに関する高度で専門的な職業能力を有する人材を育成することを目的とする。
-----------------------	--

大学院	
メディア・造形研究科 (メディア・コンテンツ専攻)	メディア・コンテンツに関する理論及び応用を教授研究し、その深奥を究め又高度の専門性が求められる職業を担うため、深い学識及び卓越した能力を培い文化の進展に寄与することを教育研究上の目的とする。

専攻科	
助産学専攻科	人間の生命や生活の質を真に理解できる感性豊かな人間性とともに、生命の尊厳と人権の尊重を基盤にした倫理観を備え、助成の健康問題の解決に向けてリプロダクティブ・ヘルス/ライツの視点から助産を实践できる能力の育成をめざす。さらにアート=技を駆使して助産学の発展に自律的・創造的に取り組める人材を育成する。

(2) 学校法人の沿革・設置する学部・学科等 [2019年4月1日]

① 沿革

昭和42年	1月	学校法人関西女子学園 創設
昭和42年	4月	関西女子学園短期大学 開設
昭和50年	6月	関西女子学園短期大学を関西女子美術短期大学に改称
昭和62年	4月	宝塚造形芸術大学造形学部美術学科及び産業デザイン学科 開設
平成5年	4月	宝塚造形芸術大学大学院修士課程 開設
平成7年	4月	宝塚造形芸術大学造形学部映像造形学科 開設
平成8年	4月	関西女子美術短期大学を関西芸術短期大学に改称
平成11年	4月	宝塚造形芸術大学造形学部芸術情報学科 開設
平成12年	4月	宝塚造形芸術大学大学院博士課程 開設
平成13年	4月	関西芸術短期大学を宝塚造形芸術大学短期大学部に改称
平成15年	4月	宝塚造形芸術大学造形短期大学部学生募集停止
平成15年	4月	宝塚造形芸術大学大学院修士課程大阪梅田サテライト開設
平成16年	4月	宝塚造形芸術大学大学院専門職学位課程開設
平成17年	4月	宝塚造形芸術大学メディア・コンテンツ学部映像造形学科及び コンテンツ・プロデューサ学科開設
平成18年	4月	宝塚造形芸術大学大学院修士課程東京新宿サテライト開設
平成19年	4月	宝塚造形芸術大学東京メディア・コンテンツ学部 メディア・コンテンツ学科開設

- 平成 20 年 4 月 宝塚造形芸術大学メディア・コンテンツ学部映像造形学科を
メディア・コンテンツ学科に名称変更
同学部コンテンツ・プロデューサ学科学生募集停止
- 平成 22 年 4 月 宝塚造形芸術大学を宝塚大学に改称
宝塚造形芸術大学造形学部美術学科、産業デザイン学科、芸術情報学
科及びメディア・コンテンツ学部メディア・コンテンツ学科の 2 学部
4 学科を宝塚大学造形芸術学部アート・デザイン学科、メディア・デ
ザイン学科の 1 学部 2 学科に改組
宝塚大学看護学部看護学科開設
- 平成 23 年 10 月 宝塚大学大学院専門職学位課程廃止
- 平成 25 年 4 月 宝塚大学造形芸術学部アート・デザイン学科を制作力創造学科に、造
形芸術学部メディア・デザイン学科を想像力創造学科に改称
- 平成 26 年 4 月 宝塚大学助産学専攻科開設
- 平成 27 年 4 月 宝塚大学東京メディア・コンテンツ学部メディア・コンテンツ学科を
東京メディア芸術学部メディア芸術学科に名称変更
- 平成 28 年 4 月 宝塚大学造形芸術学部学生募集停止
- 平成 29 年 4 月 宝塚大学大学院メディア・造形研究科造形・デザイン専攻修士課程・
博士課程（後期）学生募集停止
- 平成 29 年 4 月 宝塚大学メディア・コンテンツ学部メディア・コンテンツ学科の廃止
- 平成 30 年 5 月 宝塚大学大学院メディア・造形研究科 造形・デザイン専攻修士課
程・博士課程（後期）の廃止
- 平成 31 年 3 月 宝塚大学造形芸術学部 制作力創造学科、想像力創造学科を廃止
- [2019年度]
- 平成 31 年 4 月 宝塚大学大学院メディア・造形研究科メディア・コンテンツ専攻を
宝塚大学大学院メディア芸術研究科メディア芸術専攻に名称変更

② 設置する学校・学部・学科等

[2018年 5 月 1 日]

	学部・専攻科・研究科	学科	入学定員	収容定員
宝塚大学	造形芸術学部	制作力創造学科 (旧アート・デザイン学科)	- ※	40
		想像力創造学科 (旧メディア・デザイン学科)	- ※	40
	東京メディア芸術学部 (旧東京メディア・ コンテンツ学部)	メディア芸術学科 (旧メディア・コンテンツ 学科)	130	520
	看護学部	看護学科	100	400
	助産学専攻科		10	10

宝塚大学 大学院	メディア・造形研究科 (修士課程)	メディア・コンテンツ専攻	20	40
-------------	----------------------	--------------	----	----

※造形芸術学部は平成28（2016）年度以降の学生募集を停止。

(3) 学生数等の状況 [2018年5月1日]

・学部・学科、専攻科、大学院の入学定員及び収容定員、学年別在籍学生数

	学部	学科	入学 定員	収容 定員	1年 次	2年 次	3年 次	4年 次	合計
宝塚 大学	造形芸術学部	制作力創造学科 (アート・デザイン)	-	40	-	-	-	24	24
		想像力創造学科 (メディア・デザイン)	-	40	-	-	-	18	18
	東京メディア 芸術学部	メディア芸術学科 (メディア・コンテンツ)	130	520	128	62	60	71	321
	看護学部	看護学科	100	400	110	95	96	107	408
	学部合計			230	1000	238	157	156	220

	専攻科	入学 定員	収容 定員	1年 次				合計
宝塚 大学	助産学専攻科	10	10	10				10

	研究科	専攻	入学 定員	収容 定員	1年 次	2年 次		合計
大学 院	メディア・ 造形研究科 (修士課程)	メディア・ コンテンツ	20	40	10	15		25

・大学定員充足率の4年間推移 [2016年度～2019年度]

※メディア・コンテンツ学部の1名を含む

【大学定員充足率（収容定員及び在籍者数） ※助産学専攻科を除く】

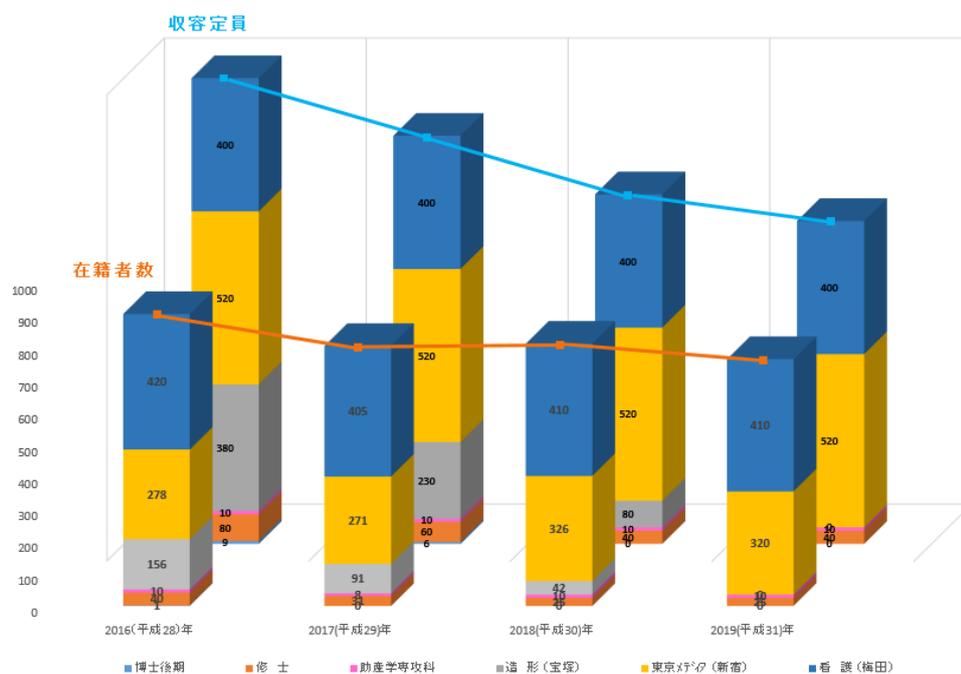
2016年度						
	全体	修士	博士 (後期)	造形 (宝塚)	東京メディア (新宿)	看護 (梅田)
収容定員	1389	80	9	380	520	400
在籍者数	895	40	1	156	278	420
充足率	64%	50%	11%	41%	53%	105%

2017年度						
	全体	修士	博士 (後期)	造形 (宝塚)	東京ｽﾀｼﾞｱ (新宿)	看護 (梅田)
収容定員	1216	60	6	230	520	400
在籍者数	798	31	0	91	271	405
充足率	66%	52%	0%	40%	52%	101.3%

2018年度						
	全体	修士	博士 (後期)	造形 (宝塚)	東京ｽﾀｼﾞｱ (新宿)	看護 (梅田)
収容定員	1040	40		80	520	400
在籍者数	796	25		42	321	408
充足率	77%	63%	0%	53%	62%	102%

2019年度						
	全体	修士	博士 (後期)	造形 (宝塚)	東京ｽﾀｼﾞｱ (新宿)	看護 (梅田)
収容定員	960	40	—	—	520	400
在籍者数	820	25		—	387	405
充足率	85.4%	62.5%	0%	—	74.4%	101.3%

収容定員と在籍者数

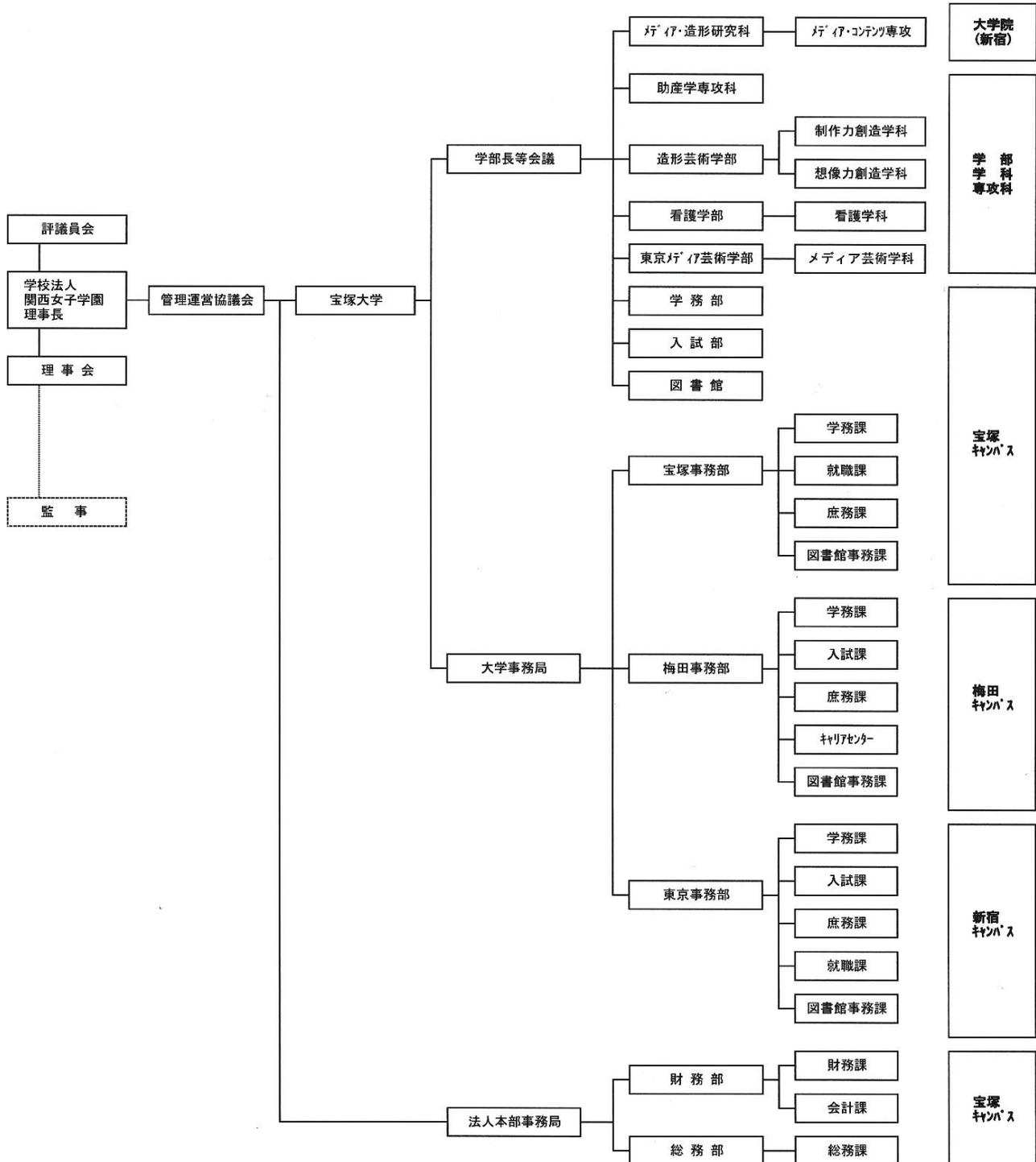


(4) 大学・教育研究組織（委員会組織等を含む） [2018年5月1日]

法人BB(1)6 管理運営規程 別表1
管理運営規程 別表 1

平成30年度 学校法人関西女子学園 & 宝塚大学 組織図

2018 (H30) . 05. 01



① 専任教員数 [2018年5月1日] ※〔 〕数値は女性教員数

学部	教授	准教授	専任 講師	助教	助手	合計
造形芸術学部	8〔2〕	5〔1〕	4〔3〕	3〔0〕	0〔0〕	20〔6〕
東京メディア芸術学部	8〔0〕	2〔0〕	5〔3〕	5〔1〕	4〔3〕	24〔7〕
看護学部	10〔7〕	4〔4〕	10〔7〕	5〔5〕	4〔3〕	33〔26〕
合計	26〔9〕	11〔5〕	19〔13〕	13〔6〕	8〔6〕	77〔39〕

※上記教員数には、学長・副学長及び特任教員（非常勤）は含めていない。

※助産学専攻科教員は看護学部を含めている。

② 兼務教員数：167名（造形芸術学部：69名 東京メディア芸術学部：58名 看護学部：40名）

※兼務教員数は特任教員（非常勤）及び非常勤講師の合計。

③ 教員組織表 [2018年5月1日]（※下線のある教員は特任教員（非常勤）を表している）

学長	山川正信
副学長	南部英幸、山口義久
研究科長	山口義久
図書館長	櫻木晃彦
学務部長	吉田 浩
入試部長	日高庸晴

造形芸術学部	
学部長	大河 繁
学科長	北澤嘉浩（制作力創造学科）、高橋一郎（想像力創造学科）
教授（8）	大河 繁、木村智博、北澤嘉浩、児玉靖枝、澤田京子、高橋一郎 林 勇氣、吉田 浩
特任教授（3）	<u>朝野富三</u> 、 <u>北田研索</u> 、 <u>曲子明良</u>
准教授（5）	葛佐 博、長久保光弘、沼田浩一、水上雅章、森口まどか
特任准教授（1）	<u>潘 山海</u>
専任講師（4）	伊佐夏実、岩城晶子、上田順平、角南登紀子
助教（3）	岡田大貴、神澤孝宣、北川淳一
非常勤講師（65）	青木一郎、青木 亨、尼子章男、荒木康裕、安藤俊雄、五十嵐修、 生原良幸、今村 悟、今村文彦、岩 琢磨、岩田 晶、植松陽一、 江原ひとみ、奥井素子、尾中哲夫、籠谷栄子、河内厚郎、葛佐晴美、 河底美由紀、川尻 潤、木村貴嗣、木村哲矢、楠田尊子、駒来 慎、 酒井真吾、佐藤賢司、渋谷直樹、島村 漱、上念省三、杉山一雄、

	鈴木洋昭、鷺見昭雄、田中健作、田端拓哉、辻尾真弓、出川春海、中村秩祥子、中川 光、中村伸之、中山 順、成瀬國晴、ニール・ブレッドバーグ、野田朗子、橋本宗明、原田淳平、東 明、平川文江、藤脇慎吾、古井三恵子、前川友介、正塚晴彦、増田妃早子、眞山直則、溝邊敬一、村田大輔、森すみれ、山田 毅、安井紫折、山上榮子、横越谷勝雄、吉岡千尋、吉田義久、吉村文彦、若井喜治、脇田孝豪
--	--

東京メディア芸術学部	
学部長	北見 隆
学科長	渡邊哲意
教授（6）	井上幸喜、北見 隆、櫻木晃彦、竹内一郎、古瀬 登、渡邊哲意
特任教授（4）	川村順一、杉山直樹、 <u>月岡貞夫</u> 、 <u>松本零士</u>
准教授（2）	中村泰之、吉岡章夫
専任講師（5）	芦谷耕平、市野治美、近藤真彫、高田美苗、仁藤 潤
特任講師（1）	<u>田島悠史</u>
助教（5）	篠田雅人、中山春樹（李 春）、橋口静思、増田宗嶺、梁 亜旋
助手（4）	石川雄仁、川上 遥、中里智美、和田歩美
非常勤講師（55）	池田 宏、伊丹谷良介、井上由加里、岩田明子、上原愛弓、薄井隆、小方涼子、加藤みち子、小高みちる、勝又俊雄、加藤 勉、加藤雅夫、川野智美、菊池 優、北村伊知郎、四宮義幸、柴田こずえ、清水弥生、清水友乃、城芽ハヤト、瀬戸早苗、竹内 敦、武澤啓之、たちばないさぎ、たぶき正博、田淵俊彦、多和田吏、David F Martin 、中路真紀、中川明博、西村 悠、萩原京子、橋本三郎、はとりあゆむ、范 文玲、春田克典、平野靖士、平山敬二、二村克彦、平敷 隆、本多由美子、真島ヒロシ、松平 聡、松吉太郎、御影雅良、宮下善成、武藤雄太、村松哲文、安田隆浩、保田悠介、大和 淳、吉澤早苗、吉田光彦、渡辺千栄子、李 宏偉

看護学部	
学部長	岩谷澄香
学科長	澤田京子
教授（10）	岩谷澄香、尾ノ井美由紀、澤田京子、竹村節子、巽圭太、八田勘司、原田俊子、日高庸晴、峯岸由紀子、山本裕子
特任教授（1）	<u>高原史郎</u>
准教授（3）	上山直美、浮田恭子、合田友美

専任講師（9）	上田裕子、梅川奈々、大江真人、大串晃弘、西田千夏、平野加代子 美王真紀、箕越功浩、森本朱実
助教（4）	大内由梨、瀬山由美子、桧山美恵子、堀 陽子
助手（3）	林 朋博、前田圭子、森脇美咲
非常勤講師（34）	浅田恵美子、飯島照仁、池田方彩、池田美智子、 伊藤園子、今村ふみ子、入江章子、内海美保、片山康子、 加畑公一郎、川島隆志、北垣博美、木村千尋、小林秀加、小松寛明、 坂元美子、嶋田加壽代、鈴木眞澄、武田倫衣子、 田村麻里江、中井美賀子、永田節子、中村貞夫、 西 徳宏、長谷川章子、林貴啓、潘 建秀、堀家なな緒、宮阪信次、 宮寄英寿、三好弘之、毛利郁子、森 合音、山口三郎

助産学専攻科	
専攻科長	岩谷 澄香
専攻科長補佐	小神野雅子
准教授（1）	小神野雅子
専任講師（1）	松田 佳子
助教（1）	中尾 幹子
助手（1）	阪田 あみ
非常勤講師（5）	生島博之、坂下裕子、徳永羊子、藤田圭以子、堀 謙輔

大学院 メディア・造形研究科 メディア・コンテンツ専攻（東京新宿キャンパス）	
研究科長	山口義久
教授	井上幸喜、北見 隆、櫻木晃彦、竹内一郎、古瀬 登、渡邊哲意
特任教授	川村純一、月岡貞夫
専任講師	市野治美、近藤真彫、高田美苗

④ 各学部の委員会組織表 [2018年5月1日]

※常置委員会を記載 ◎印：委員長 ○印：副委員長

造形芸術学部			
委員会名	専任教員	事務職員	外部委員
教務委員会	◎吉田・北澤・林・木村・沼田・ 伊佐	田中和・田中康・ 山口	
学生委員会	◎水上・岡田・角南・神澤 澤田・長久保	田中和	

FD委員会	◎高橋・吉田・角南・岩城	田中康・村野・ 会田・山口	
就職委員会	◎葛佐・児玉・長久保	北・会田	
図書委員会	◎沼田・葛佐・森口	月本・中澤・ 川上・松村	
紀要委員会	◎岩城・北澤・木村・伊佐	月本	
展示作業委員会	◎岡田・児玉・水上・林・ 上田・神澤・北川	北・田中和・ 竹内	

東京メディア芸術学部			
委員会名	専任教員・助手	事務職員	外部委員
教務委員会 学生委員会 (科研費 兼務) ※別委員会である が委員は全員兼務	◎近藤(教務)◎橋口(学生) 井上・北見・杉山・竹内・ 渡邊(科研費) 仁藤・篠田・梁・石川・川上・ 中里・菊入	○高山(教務) ○大和(学生) 登坂・岩脇・ 村田・成田・ 小川・梁	
入試企画委員会	◎吉岡・櫻木・古瀬・渡邊・中村 芦谷・市野・高田・中山・増田 石川・中里・和田	○金澤・佐藤・ 宇部・成澤・ 森岡・宮幸	
就職委員会	◎井上・市野・近藤・高田・中山 仁藤・川上・和田	○谷口・名雪・ 佐藤・小川・梁	
IR推進委員会 (FD委員会兼務)	◎篠田・渡邊・橋口	○高山・大和	

※特別委員会：紀要編集委員会

看護学部			
委員会名	委員会メンバー	事務担当	外部委員
教務委員会	◎竹村・上山・平野・森本・ 西田・松田・大内	藤田・松本	
学生委員会	◎八田・峯岸・大江・大串・ 大内・前田・森脇	岡崎	
FD委員会	◎原田・浮田・平野・箕越・堀	増田	
キャリア支援	◎峯岸・美王・梅川・桧山	太田	
実習委員会	◎山本・尾ノ井・合田・美王・ 大串・梅川・瀬山・堀	谷口	

国家試験対策委員会	◎合田・上田・大江・森本・瀬山・桧山・林・阪田	太田	
初年次教育委員会	◎巽・浮田		
研究倫理委員会	◎日高・竹村・山本・上山	阿部	高橋・木原
紀要編集委員会	◎巽・浮田・上田・西田・箕越	中西・川久保	
図書委員会	◎尾ノ井	月本・川久保	
入試・広報委員会	◎日高・岩谷・竹村・小神野・西田・平野・中尾	中島・会田	

※特別委員会：カリキュラム委員会、倫理委員会、看護学部将来構想委員会

⑤ 各キャンパス別職員数 [2018年5月1日]

キャンパス	専任職員	契約職員	教務助手	パート	合計
宝塚（法人本部）	15	0	0	2	17
東京新宿	11	6	2	0	19
大阪梅田	12	1	0	0	13
合計	38	7	2	2	49

※法人本部職員は宝塚キャンパスに含めている。

(5) 経営改善計画における点検・評価

① 教学改革の推進状況（3つのポリシーの見直し、カリキュラム改革状況など）

【造形芸術学部】

2018年度が最終の卒業生となる在籍学生に対し、教育環境の維持及び学生支援を最優先課題として教育態勢の維持に取り組んだ。履修希望者のいない授業科目を除きすべての授業科目を開講し教育課程を担保した。

教育内容・学生生活・進路・就職に対する不安の解消に努め、所属する学生数の減少によって授業の維持に支障が出るのが想定された領域にあつては、学外連携や人的補助を想定した予算措置を講じることによって教育の質の維持を図った。その結果、2名が除籍・退学となるも、その他の36名が卒業し、90.3%の就職を実現した。

【東京メディア芸術学部】

教職協働による「教学企画室」を設置し、教学に関する企画立案から実行までの具体的施策を協議のうえ決定する体制を構築した。また、3つのポリシーのもと、専門と専門以外の教育の有機的結合を意識しつつ、重複科目の統廃合など科目数の縮減、単位付与の実質化、学力の3要素を育成する科目の新設といったカリキュラムの再構築の第一段階に取り組んだ。これを契機として、高大接続改革の完成年度を迎える2021年度入学者に向けたカリキュラムの大幅な改編に引き続き取り組む。

【看護学部】

「看護学教育モデル・コア・カリキュラム」に基づき、2020年のカリキュラム改訂に向け、社会の変遷に対応し、看護師として必要とされる質の高い人材育成のために以下の教育内容の強化に取り組んだ。IR情報のデータ分析に基づいた高大接続及び初年次教育からの継続性を踏まえ、2019年度より「キャリア教育Ⅰ」「キャリア教育Ⅱ」を設置する。また、学生の学習評価について、達成すべき質的水準や評価の方法を定めた「看護学部アセスメントポリシー」を策定した。

② 学生募集について

【東京メディア芸術学部】

「大学名の認知度向上のための広報策」として、学部のトップページをリニューアルし、高校生がアクセスしやすいようにスマホ対応型のホームページにバージョンアップをした。また、学部の特色でもある地域連携や学外連携活動のプレスリリースを行い、併せてYouTube やリスティング広告も強化した。また、進学相談会や出張授業を1.4倍に増やし、高校生との接触回数を増やした。さらに従来の大学奨学金制度に加え、新たに入学前予約型奨学金と各種支援金制度を創設した。その結果、2019年度入試実績では、A0入試は1.4倍、一般入試は3.7倍の出願者増となった。

2012年度以降、6年連続で入学定員割れ（0.7倍未満）が続いていたが、2016年度より学部の広報活動を見直し、入試制度改革及びオープンキャンパスの改善に向けて教職協働で取り組んだ。その結果、2018年度入学者数は128名（入学定員の98%）、2019年度入学者は134名（入学定員の1.03倍）となり、入学定員充足率は2年連続で回復基調となっている。しかしながら、今後、メディア芸術系を取りまく競争環境は厳しくなることが予想されるため、引き続き学生確保のための方策について検討・改善をしていく。

【看護学部】

学生募集については、広報戦略の見直しを図り効果的な広報活動を展開した。特に交通広告を見直し、WEB広告を中心に広報活動を行った。交通広告は、オープンキャンパス時にアンケートを実施し、効果が低いものは実施を見送った。また、WEB広告では、業者と連携し効果検証を行いながら、広報戦略を立て直すこととした。その結果、オープンキャンパスの生徒参加者数は750名（+56名）で108%増となった。

一般入学選考においては志願者数が前年比約70%となったが、周辺の看護学部においても同様の傾向を示しているため、結果分析を行いながら今後の対策を講じていく。また、オープンキャンパス参加者が出願に繋がるように工夫を考えていく必要がある。入試結果は、入学定員100名に対して、2019年度入学者は105名（2018年度入学者は110名）となった。

今後、看護医療系を取りまく競争環境は厳しくなることが予想される。そのため、次年度においては、高大連携をさらに強化すること、及び実習先施設の充実と多様な就職先や教養科目の充実など、本学部の特長をアピールし、他大学との差別化を伝えられる広報活動を行なう。

【オープンキャンパス等の出席者状況】

		2018年度 (2019年度募集)		2017年度 (2018年度募集)		備 考
		生徒	保護者	生徒	保護者	
東京 メディア 芸術学部	オープン キャンパス	1009	384	814	263	2018年度：10回実施 2017年度：9回実施
	ミニオープン キャンパス	28	20	70	22	2018年度：2回実施 2017年度：3回実施
	公開授業	—	—	47	23	2018年度は実施なし
	合計	1037 (+106)	404 (+96)	931	308	()内は前年度比
看護学部	オープン キャンパス	538	203	440	190	各年度：5回実施
	ミニオープン キャンパス	212	85	254	106	2018年度：4回実施 2017年度：5回実施
	合計	750 (+56)	288 (-8)	694	296	()内は前年度比

【入学選考状況一覧】（選考内容については、「2.学修と教授（1）」参照）

東京メディア芸術学部										
	2018年度（2019年度募集）					2017年度（2018年度募集）				
	定員	志願者	受験者	合格者	入学者	定員	志願者	受験者	合格者	入学者
A01期	52	40	40	40	40	52	20	20	20	20
A02期		8	7	7	7		7	7	7	
A03期		7	7	7	7		6	6	6	5
A04期		11	11	10	10		15	15	15	15
指定校推薦1期	52	5	5	5	5	52	12	12	12	12
指定校推薦2期		6	6	5	5		4	4	4	4
公募推薦		1	1	1	1		1	1	1	1
自己推薦1期		0	0	0	0		1	1	1	1
自己推薦2期		1	1	0	0		2	2	2	2
留学生1期	若干名	27	26	17	13	若干名	21	21	21	17
留学生2期		41	40	18	13		13	13	13	9
留学生3期		49	48	19	15		46	45	30	28

社会人1期	若干名	0	0	0	0	若干名	0	0	0	0
社会人2期		0	0	0	0		0	0	0	0
一般1期	26	13	13	9	6	26	4	4	3	3
一般2期		14	13	8	7		2	2	2	2
一般3期		2019年度は実施せず					1	1	1	1
チャレンジ入試	若干名	10	10	5	5	—	2019年度から実施			
日本語学校 指定校推薦1期		0	0	0	0		0	0	0	0
日本語学校 指定校推薦2期		0	0	0	0		1	1	1	1
合計	130	233	228	151	134	130	156	155	139	128

看護学部										
	2018年度（2019年度募集）					2017年度（2018年度募集）				
	定員	志願者	受験者	合格者	入学者	定員	志願者	受験者	合格者	入学者
指定校推薦	5	6	6	6	6	5	7	7	7	7
公募推薦前期	20	107	106	44	30	20	113	110	40	29
公募推薦後期	15	107	105	33	21	15	100	93	37	30
社会人	若干名	3	3	1	1	若干名	1	1	1	1
一般1期	45	156	144	44	24	45	226	207	47	23
一般2期	15	90	76	27	23	15	127	105	29	20
合計	100	469	440	156	105	100	574	523	161	110

③ 外部資金の獲得・寄付の充実等（2018年度）

- 外部資金の獲得及び交付額は以下の実績となった。
 - 「私立大学等経常費補助金の交付額」 116,977千円
(内訳：一般補助104,217千円、特別補助12,760千円)
 - 「科学研究費補助金の交付額」 7件21,320千円
(内訳1：日本学術振興会 直接経費5,400千円、間接経費1,620千円)
(内訳2：厚生労働省 直接経費11,000千円、間接経費3,300千円)
- 地元自治体と連携した補助事業による外部資金
 - 「兵庫県内大学と連携した就活支援事業」 300千円
- 寄付金については、創立50周年を迎えた2017年度から継続して「学園創立50周年記念事業寄付

金」募集を行い「施設拡充費寄付金」等と合わせ、合計55件、633千円の寄付金を得ることができた。

- ・収益事業の営業利益 34,000千円より、収益事業収入として28,000千円を学園に繰り入れた。
- ・「私立大学改革総合支援事業」については、助成金を獲得する基準に至っていないため、本学の教育の特色も踏まえた、更なる改善にむけた取り組みが必要である。

④ 人事政策・人件費の抑制

造形芸術学部廃止に伴う教員の再就職支援については、学内公募による看護学部への再雇用及び再就職支援サービス企業と契約するなどの就業支援を行った。また、職員の適正配置については、宝塚事務部組織の廃止・統合を前提に事務・法人組織の効率化と強化を図りながら、法人本部及び梅田事務部への配置異動を行った。

⑤ 宝塚キャンパスの活用方法の検討について

「造形芸術学部」の廃止に伴い、宝塚キャンパスの今後の活用方策について、検討会を設置し、宝塚市を始め企業などの関係機関と協議を開始した。また、法人本部内に「将来構想企画室」の設置準備を進めている。

⑥ 経費抑制（人件費を除く）

予算編成にあたっては、各学部・各事務部が設定する戦略的項目・重点項目（収入増加額が支出増加額を上回る十分な見込みのある項目）については、管理運営協議会の下部委員会にて十分な検証を行い、適正な予算編成と執行を進め、更なる経費抑制に努めた。

水道光熱費は、経常的経費の中で大きな部分を占めていることから、教室使用稼働率を高め、経費削減に努めた。

⑦ 借入金と現金預金

2016年度末で借入金は全て完済している。また、資金繰りについては、本年度も円滑に推移した為、当座貸越等の短期借入金を活用することはなかった。

本年度末における現金預金残高は1,563百万円となり、良好な流動比率の維持に努めた。

2. 学修と教授

(1) アドミッション・ポリシーに沿った学生の受け入れ

※入試の受入方法、選考内容、定員管理などを含む

アドミッション・ポリシーを Web サイト及び大学案内パンフレット、入試要項等に記載し、入学志願者に対して、広く公表し周知を図っている。特に受験生、高校生、保護者と直接接できるオープンキャンパスでは、アドミッション・ポリシーはもとより、専門分野ごとに学べる授業カリキュラムの内容について紹介し、受験希望者、保護者の学びの質問に対し、具体的かつ丁寧な回答を心掛け周知に努めている。

① 大学のアドミッション・ポリシー

宝塚大学は、豊かな感性と、深い理解力と、高い実践力を持つ人材を育成するため、高等学校等における学修を通して基礎学力を身につけ、幅広い教養と高い専門性を求めようとする、向上心・探究心を持っている人を受け入れます。

② 東京メディア芸術学部のアドミッション・ポリシー

本学部では、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーに定める教育を行う条件として、次のような能力や意欲を備えた人物を求めます。

1. 高等学校等卒業レベルの基本的能力を備え、積極的にメディア芸術を学修する意欲をもつ人
2. 高等学校等の教育課程外（部活動やボランティア活動、社会貢献活動等）においても主体的に活動し、知識や技能を身につけてきた人
3. 明確な目的意識や目標を持ち、社会に貢献する意欲を持つ人
4. 社会の規範を遵守し、メディア芸術分野の知識や技能を用いた表現への意欲を持つ人
5. 計画性をもって他者と協力し、物事に取り組もうとする人
6. 知識や経験を基に理論的に判断し、物事を表現する意欲を持つ人

③ 看護学部のアドミッション・ポリシー

下記の能力を備えた受験生を各種選抜試験を通して入学させる。

1. 知識・理解

入学後の就学に必要な基礎学力を有している。

高等学校で履修する国語、数学、理科、外国語などについて、内容を理解し、高等学校卒業相当の知識を有している。

2. 思考・判断

さまざまな問題に立ち向かい、物事を多面的かつ論理的に考察することができる。

3. 関心・意欲

人間の生命と健康に深い関心を持ち、積極的に社会に貢献する意欲がある。

4. 態度

豊かな感性と誠実な態度で、積極的に他者と関わることができる。

5. 意欲

看護学を主体的・創造的に学ぶ意欲を有している。

6. 表現

自分の考えを的確に表現し、伝えることができる。

【入学選考内容】（2018年度実施の入学選考）

東京メディア芸術学部	
AO入学選考（第1期）（第2期） （第3期）（第4期）	AO面談（作品評価を含む）またはAOプログラム受講 （個別面談・課題レポートを含む）
公募推薦入学選考	面接・作品審査・提出書類（志望理由書・調査書） 審査
自己推薦入学選考（第1期） （第2期）	面接・作品審査・提出書類（自己推薦書・調査書） 審査
社会人入学選考（第1期） （第2期）	面接・作品審査・提出書類（志望理由書等）審査
一般入学選考（第1期） （第2期）	学力試験（英語・国語・数学から選択）・実技試験・提出書類審査（志望理由書・調査書）
チャレンジ入学選考	面接・提出書類審査（志望理由書・調査書）
留学生入学選考（第1期）（第2期） （第3期）	作文（文章表現）・面接・作品審査・提出書類（志望理由書等）審査
看護学部	
公募推薦入学選考（前期）	基礎適性検査（英語・数学・国語）・小論文
公募推薦入学選考（後期）	基礎適性検査（英語・数学・国語）・グループ討論
社会人入学選考	基礎適性検査（英語・数学・国語）・個人面接
一般入学選考（第1期）・（第2期）	学科試験（英語・国語＋数学／生物より選択）

※その他、指定校推薦入学選考を実施

（2）カリキュラム・ポリシーに沿った教育課程の実施状況

① 造形芸術学部のカリキュラム・ポリシー

教育研究上の目的である「造形芸術に関する基礎的教育を施すとともに、それらの分野に属するさまざまな領域に関する理論及び表現について、深く教育研究し、それらに関する高度で専門的な職業能力を有する人材を育成すること」を達成するために、教育課程を「基礎科目（教養科目）」「外国語科目」「専門科目」に区分し、それぞれの教育が有機的に連携し、体系的に学習できるように編成する。

基礎科目（教養科目）は、将来アーティスト、デザイナー、クリエイター又はプロデューサーとして活躍していく上で、その基盤となる人間や社会、文化に対する知識と技能を修得し、人間形成の根幹となる主体的な自己を確立し、豊かな人間性の涵養とさまざまな場面に適応できる

幅広い思考力・判断能力の基礎を培い多様な視点を得ることを目的とする科目群を設定する。

「専門科目」は、将来、「アーティスト」「デザイナー」又は「映画」「マンガ」「音楽」「テレビ」「アニメ」「ゲーム」「舞台芸術」クリエイター又はコンテンツ・プロデューサーとして活躍していく上で必要な専門的知識及び技術を与えることを可能にするための科目を設定する。（※以下教養教育及び入学前教育の実施については割愛）

② 東京メディア芸術学部のカリキュラム・ポリシー

本学部では、建学の精神に基づき、ディプロマ・ポリシーに掲げた能力及び専門性を修得させるため、次のような方針に従って教育課程を編成し実施する。

◆教育課程編成の方針

1. メディア芸術に関する基礎的知識の修得と職業意識の醸成、コミュニケーション力及びコラボレーション力の育成を行い、実社会で活動するための知識や技能の基礎を築くことを目的に、初年次教育の科目群を設定する。
2. 現代社会の要請を的確に捉え、思考の方法や行動の原理を理解するための基礎となる、汎用的な能力や社会的規範の修得及び多様な文化の理解を目的に、「基礎科目」「外国語科目」の科目群を設定する。
3. メディア芸術の素養を身につけた人材として、社会において活躍するために求められる、体系的な専門的知識や技能を育成することを目的に、「専門科目」の科目群を設定する。
4. 大学での学修を実社会と接続させる実践的体験を通して、学修の意義を認識し、社会において活動する意欲と能力を育成することを目的に、ゼミ活動や学外連携活動を設定し、単位を付与する。
5. 本学科での学修により得た知識や技能を統合し、自らの思考を表現、発信する能力を育成することを目的に、「卒業研究Ⅰ及び卒業研究Ⅱ」を必修科目として設定する。

◆実施の方針

1. 各授業科目において、授業の目的、到達目標、ディプロマ・ポリシーとの関連、各回の授業内容、成績評価基準を明確にして周知する。
2. 主体的に問題を発見し、それを解決するために協働し、自らの思考を他者に伝える力を育成するために、多様な教育方法に対応した教室環境を整備し、アクティブ・ラーニングを積極的に導入するなど授業形態や教育方法を工夫する。
3. 大学での学修が実社会と接続していることを認識させるために、自治体や地域の団体等と連携した活動を積極的に実施する。
4. 授業の双方向性を高めるために、学生から提出された課題や制作物へのフィードバックを積極的に行うよう努める。
5. 教育課程の有効性について、学生の履修状況、単位修得状況、学生への各種アンケート調査及び教職員などへの調査に基づいて点検し、評価する。

◆教育評価

1. 1年次修了時に、自身の興味・関心や学修状況に基づき、2年次以降の専門分野を教員と話し合う専門選択面談を行う。
2. 3年次修了時に学修の到達度や成果に基づき、卒業制作や卒業論文に取り組む基礎能力の修得が完了しているかどうかの到達度評価を行う。
3. 4年次において、本学科での学修の成果を統合する「卒業研究Ⅰ及び卒業研究Ⅱ」を必修とし、評価担当教員において評価基準に基づいて公正に評価する。

③ 看護学部のカリキュラム・ポリシー

教育理念、教育目標を基盤に打ち出したアドミッション・ポリシーを基盤に置き、ディプロマ・ポリシーに沿った能力を持つ学生の育成を目指したカリキュラム編成とするため、5つのカリキュラム・ポリシーを策定する。カリキュラムは、基礎分野、専門基礎分野、専門分野に大きく分類し、それぞれの科目内容の持つ教育的な性格、位置づけを明確にし、科目配列の順序性は、体系だった理解が容易になるための配列、時間数を配置する。

1. 基礎分野は、教養としての位置づけと、専門基礎科目を理解していく基盤とする。

人間を理解していく教育内容を「人間と科学」「人間と社会」「人間と文化」「人間と語学」に分類し科目内容を構築する。

加えて人間が生活をしていく中で必要な社会性、および学びを深めるために必要な能力として、読む・書く・聞く・話すなどの能力を身につけるために必要な教育内容とする。

2. 専門基礎分野は、専門科目の内容理解の基盤とする。

必要な教育内容を「人間の理解」「健康と疾病の理解」「関係の発展」に分類し、科目内容を構築する。人間を心身両面から理解するために必要な科目と社会や医療を幅広く理解する科目を配置する。さらに癒しと芸術について、人間の内なる自然力を回復させるアートの可能性について学ぶ科目を配置する。

3. 専門分野の教育内容の中心概念として、「看護実践力の育成」をおく。

専門分野は、「看護の基盤となる領域」「看護を発展させる領域」「看護を応用する領域」「看護の技を習得する領域」に分類する。「看護の基盤となる領域」では、看護実践の基盤となる科目を配置した。「看護を発展させる領域」では、対象の発達段階、看護の場、看護の機能の特徴から6領域（成人看護学、老年看護学、小児看護学、母性看護学、精神看護学、在宅看護論）に分け、それぞれの領域ごとに科目を構築する。「看護の技を習得する領域」では、8領域の看護学実習科目を配置する。「看護を応用する領域」では、学生が主体的にキャリア能力を持続的に育成し続ける学修力育成に必要な科目を配置した。

4. 学生が効率的に学修でき、成果が上がることを目指して、基礎分野・専門基礎分野・専門分野の教育内容を精選したうえで、必要最小限の教育内容とする。

5. 本カリキュラムにより取得できる看護職のキャリアは、看護師国家試験受験資格である。

④ カリキュラム・ポリシーに沿った学生の受け入れ状況

・入学前教育・初年次教育

【東京メディア芸術学部】

入学前教育は専門領域に関する基礎スキルの課題を課すことと、学生同士の交流を図るためにキャリアプランについてディスカッションさせる場を設けた。また、初年次教育は、大学で学ぶための基礎力（調べる・考える・伝える・表現する）及びコンピュータ・リテラシーを軸に置き、「表現実践」「表現思考」「表現とICT」の3科目構成とする見直しを図った。

【看護学部】

入学前教育では、高等学校の基礎教育「英語・数学・国語・理科」の自習課題を与えている。また、初年次教育では、入学後、看護職として必要とされる知識と技能を修得するためのアカデミックスキル、コミュニケーションスキルの向上を目的に、「看護学部に役立つ物理」「看護学部に役立つ化学」などリメディアル教育を7週にわたり実施した。

・授業計画（シラバス）作成の適切性及び運用

【造形芸術学部】

2019年卒学生が在籍の最終学年となるため、全ての履修科目を担保しシラバスに即して授業を行い、学修成果の判定及び成績評価を行なった。

【東京メディア芸術学部】

シラバスに一般的事項に加えて、到達目標、事前・事後学習内容、学生へのフィードバック方法、成績評価方法、ディプロマ・ポリシーとの対応内容を記載している。次年度からは「実務経験のある教員の授業科目」を追加し、シラバスが学生の学修に益するものとなるよう毎年、内容を見直している。また、学部内に第三者「シラバス検証小委員会」によるチェック体制を敷き、全授業のシラバス記載内容を点検し、必要に応じて改正をしており適切性を担保している。

【看護学部】

教務委員会内にシラバス小委員会を設け、毎年、シラバスの記載項目と内容の見直しを行っている。実務家教員が担当する授業科目の記載、ディプロマ・ポリシーと授業内容の関連性、アクティブラーニング項目の細分化をした。事前・事後学習についても、学生が理解しやすい表現とし、学生の自己学習を促す内容としている。

・学生による授業アンケート結果の学生・教員へのフィードバック

各教員が授業方法の改善点を見出し、積極的に自己研鑽し、大学全体の教育の質を向上させるため、学生による授業評価アンケートを年2回実施している。アンケート結果は、教員及び学生が閲覧できる場所に設置するとともに、教科担当の全教員に個別に配布して授業改善に努めるよう促している。また東京メディア芸術学部では、授業アンケートで高ポイントであった教員の授業見学をFD研修の一環として実施し、学生にも参加を呼びかけている。

・教職協働、SA（Student Advisers）、LS(Learning Staff)等の活用による学修支援

学部内に設置されている各委員会には、専任の教職員が参画しており、教職協働による意見交換と協議を行い学生情報の共有化を図っている。また、学修支援体制の取り組みとして、学修者の理解度や到達度が維持できるよう、PCなどの実技系授業に助手・SAを配置し、授業の質の向上にむけたサポート体制を整えている。初年次教育を専門にサポートする学生LSの定期的な研修制度も設けている。

・FD（Faculty Development）・SD（Staff Development）の実施と教養教育の実施

大学全体では、計19回のFD及びSDを実施した。このうち9回は外部から講師を招き、10回は教員・職員の研究及び研修活動の一環として実施した。

実施月 (2018年度)	FD/SD 実施テーマ ※外部講師	参加人数
	【造形芸術学部】	
6月	・ FD/SD 「海外と日本・最新コミックの考察」	20名
9月	※ FD/SD 「今日から使えるコミュニケーション力①」	53名
10月	・ FD/SD 「キャンパスハラスメントの理解と予防について考える」	22名
9月	・ SD 「教職協働の組織運営をめざして」	11名
12月	※ FD/SD 「今日から使えるコミュニケーション力②」	16名
	【東京メディア芸術学部】（学部IR委員会主催）	
7月	・ FD 「授業アンケート結果を活用したFD研究会Ⅰ（授業見学）」	27名
8月	・ FD 「授業アンケート結果を活用したFD研究会Ⅱ（意見交換会）」	17名
9月	・ FD/SD 「カリキュラムマネジメントの重要性とカリキュラムマップ作成ワークショップ」	31名
9月	・ SD 「教職協働の組織運営をめざして」	14名
12月	※ FD/SD 「多様化する学生支援－発達障害を抱える学生への対応－」	41名
12月	・ FD 「学生の学修を促すシラバスの書き方と授業設計」	26名
3月	・ FD/SD 「2021入学者向け－新カリキュラム案作成ワークショップ」	28名
	【看護学部】	
5月	※ FD/SD 「職場を元気にするヘルスコミュニケーション」	34名
6月	※ FD/SD 「生き抜く力を育むヘルスコミュニケーション」	24名
8月	※ FD/SD 「健全な職場づくりと活性化：SOCの視点から」	36名
9月	・ SD 「教職協働の組織運営をめざして」	11名
9月	※ FD/SD 「3つのポリシーの策定の意義と一貫性構築技法」	29名
9月	※ FD/SD 「学習評価の基本」	26名
3月	※ FD/SD 「ループリック評価入門－時短・ぶれない・公平な評価方法－」	30名

・看護学実習について

看護学実習は、学生5名に対し教員1名で臨む実習指導体制を敷いている。実習委員会では、「個人情報の取り扱い」「インシデント・アクシデント・ハラスメントの予防と対応」「ユニホームの改良」などの見直しを行い、効果的な実習を運営するため改善に努めた。また、実習先施設数の不足についても、実習委員の開拓努力により確保することができた。

総合実習では、これまで学んだ知識・技術・態度を統合し、看護専門職としての役割を理解させている。また、その役割が医療施設や地域内でどのようにして展開されているかを学び経験することで、幅広い視野を持った看護専門職を養成すべく実施している。

(3) ディプロマ・ポリシーに沿った卒業・修了認定の実施状況

① 宝塚大学のディプロマ・ポリシー

宝塚大学は、豊かな感性と、深い理解力と、高い実践力を持つ人材を育成するため、所定の期間在学し、所属学部において定める能力を身につけ、所定の単位を修得した学生に学位を授与します。

② 造形芸術学部のディプロマ・ポリシー

- ・主体性・自主性を持って、自己の専門性を高める態度とともに、専攻領域で身につけた高度な専門知識や技術・技能を、さらに実社会で進展させる能力を有していると認められること。
- ・芸術制作活動をとおして、社会に貢献する能力・意欲・態度を有していると認められること。

③ 東京メディア芸術学部のディプロマ・ポリシー

卒業要件を満たす所定の単位を修得し、建学の精神である「芸術と科学の協調」を理解し、次のような能力を備えたうえでメディア芸術の素養を基に、独創的な方法を用いて社会や文化の正常な発展に貢献できる学生に対し、卒業を認定し学位を授与する。

1. 主体的行動力

自身で目標を設定し、それを達成するために主体的且つ意欲的に行動することができる。

2. 表現力

自らの考えを、学修によって獲得した知識や技能を駆使して表現し、社会の規範を遵守したうえで他者へ発信することができる。

3. 社会貢献力・コラボレーション力

組織や集団の目的を理解したうえで、違う考えや違う専門を有する多様な他者と協働し、獲得した知識や技能を用いて、社会のために積極的に行動し、貢献することができる。

4. 課題発見力・課題解決力

社会の中にある様々な問題や課題を発見し、その解決のための方法を考え、主体的に実行することができる。

5. コミュニケーション力

自身の考えを論理的に表現、発信し、他者と考えを交流させることができる。

6. 専門的知識・技能の活用力

学修によって獲得した知識や技能を統合し、社会の中で活用することができる。

④ 看護学部のディプロマ・ポリシー

本学部は、所定の卒業要件単位を修得し、建学の精神である「芸術と科学の協調」を理解し、次のような能力を備えたうえで、看護学の知識・技術を用いて社会に貢献できる学生に対し、卒業を認定し学位を授与する。

1. 主体的行動力

・自らの目標を設定し、それを達成するために主体的且つ意欲的に行動することができる。

2. 表現力

・看護の対象者の声に耳を傾け、自分の考えを学修によって獲得した知識や技能を駆使して口頭や文章によって表現し、社会の規範を遵守したうえでの確に発信することができる。

3. 社会貢献力・コラボレーション力

・自己と異なる考えや多様な人と協働し、獲得した知識や技術を用いて、社会のために積極的に行動し、貢献することができる。

4. 課題発見力・課題解決能力

・看護現場にある様々な問題や課題を発見し、その解決のための方法を探求し、その成果を基に主体的に実践することができる。

・看護の発展に寄与できるよう、自己研鑽力と基礎的な研究能力を有する。

5. コミュニケーション力

・自身の考えを論理的に表現、発信し、他者と考えを交流させることができる。

6. 専門的知識・技能の活用力（看護実践力）

・看護の対象となる人々を身体・心理・社会的な面から総合的に理解するため、豊かな教養と学問への探究心を備え、専門的な知識技術を修得している。

・アートを生かした癒しの看護が実践できる。

・多様な場における対象の看護課題に対し、科学的根拠に基づく判断ができ、解決するための実践ができる。

・人間の尊厳に基づく倫理観を有し、人々の多様な価値観を尊重する姿勢を身につけている。

⑤ 卒業認定・修了認定の実施状況

部の教授で構成する卒業判定予備会議・卒業判定会議（看護学部の卒業認定及び助産学専攻科の修了認定においては教務委員会）を経たうえで、教授会審議をもとに学長が決定をする。また、大学院研究科の学位請求論文の審査は、学生の研究主題ごとに組織された、資格を有する3人の教員から成る審査委員会によって厳正に行われ、その結果は研究科委員会に報告される。学生の修了認定及び学位授与の可否は、研究科委員会の審議によって最終的に決定している。

(4) キャリア教育の実施状況

【造形芸術学部】

最後の卒業生となる4年生に対し、全ての学生が就職及び卒業後の進路を決められるよう学生委員会と協力のうえ学生支援策をまとめ、学長・副学長に提案した。学生の希望する就職支援を行なうため、個別キャリアカウンセリングを徹底し、求人情報をスマートフォンで閲覧できる「LINE@」を活用した就職情報提供サービスを実施した。この結果、就職希望者9割の学生が就職内定を得ることができた。

【東京メディア芸術学部】

授業カリキュラムでは、初年次教育から社会人基礎力を身につけるためのプログラムを実施し、2年次以降は「企業・業界と仕事、就職活動、自己理解」をテーマとした「キャリアデザイン」の授業を新たに設置した。

個別面談や各種セミナー、企業説明会、就職ガイダンスの実施についても、就職支援委員会で教職員間の情報共有と連携のもと、キャリア教育の学修段階に合わせ、より具体的なサポートが行えるよう取り組んだ。また、留学生の担当教職員3名も委員会に加わり、留学生2年次以降のサポート内容の協議を行い、日本独自の就職システムの解説や日本語資格試験の受講促進、並びに直前対策講座の設置を決めた。

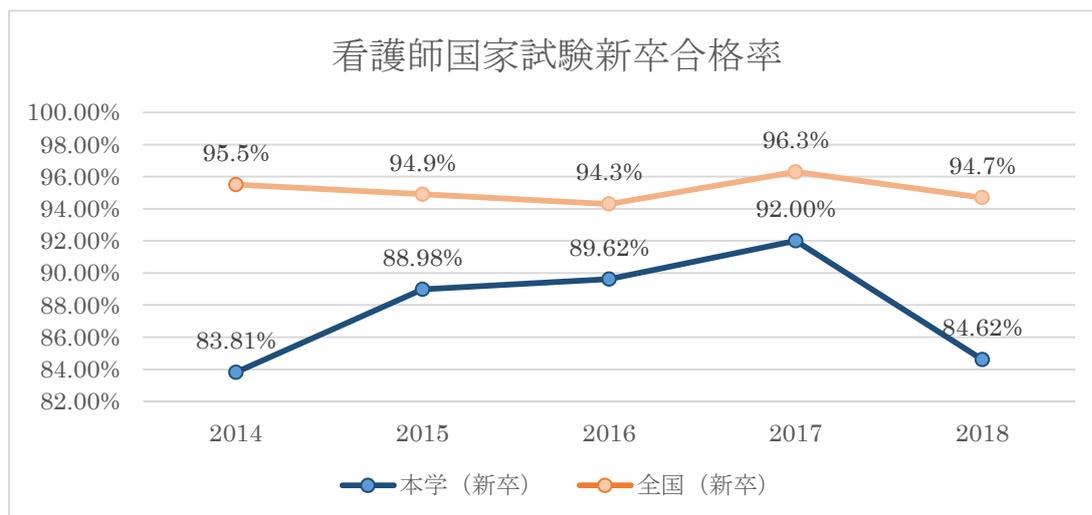
【看護学部】

近年では地域包括ケアシステムの導入により、看護師にも高い技術力とアセスメント力が求められ、かつ他職種との連携ができる能力が求められている。このように社会の変化に伴い看護師ニーズも変化している。これらを踏まえてキャリア支援委員会では、年次ごとに開講する「キャリアデザインI～IV（特別講座）」と連携を図りながら、就職対策系講座は予定よりも早く実施をした。また、卒後対象の「シャトル研修」では、職場でのストレス対応やアサーティブトレーニングを行い65名が参加した。2018年度卒生志望者の全員が狭き門となってきた病院施設への就業を果たした。

(5) 国家試験の合格実績

年度	区分	看護師			助産師			全国	
		受験者	合格者	合格率	受験者	合格者	合格率	看護師	助産師
2014年度	新卒	105	88	83.8%	5	5	100.0%	95.5%	99.9%
	既卒	13	9	69.2%	-	-	-	39.2%	96.7%
	総数	118	97	82.2%	5	5	100.0%	90.0%	99.9%
2015年度	新卒	127	113	89.0%	5	5	100.0%	94.9%	99.8%
	既卒	20	10	50.0%	0	0	-	35.5%	100.0%
	総数	147	123	83.7%	5	5	100.0%	89.4%	99.8%
2016年度	新卒	106	95	89.6%	7	6	85.7%	94.3%	93.2%
	既卒	20	8	40.0%	0	0	-	35.6%	55.6%
	総数	126	103	81.7%	7	6	85.7%	88.5%	93.0%

2017 年度	新卒	100	92	92.0%	7	7	100.0%	96.3%	99.4%
	既卒	21	16	76.2%	1	1	100.0%	44.5%	88.8%
	総数	121	108	89.3%	8	8	100.0%	91.0%	98.7%
2018 年度	新卒	91	77	84.6%	9	9	100.0%	94.7%	99.6%
	既卒	12	5	41.7%	0	0	0%	29.2%	76.9%
	総数	103	82	79.6%	9	9	100.0%	89.3%	99.9%



（6）点検・評価

建学の精神・理念、3つのポリシーを踏まえた教授・学習活動が展開されているかどうかについて点検・評価を行い、教育方針やカリキュラムの見直しと充実を図るために会議を実施、また教職員対象のFD・SD研修会を開催するなど、具体的に取組みを行ってきた。学生や受験生に対してもガイダンスやオープンキャンパス等で本学の方針やそれに基づく教育体制等について説明をしているが、より理解が深まるよう丁寧な説明を行っていききたい。

また、学生アンケート調査、学生FD委員会等による意見聴取、学修動向調査アンケート等については継続実施をし、教育指導および教育課程の改善に反映させるとともに、「教育職員自己評価」により教員の自発的な教育・指導の改善を促し、教育・指導環境の充実を図っているところである。今後更に、大学としてのリメディアル教育及び初年次教育の充実に向け、人員増も含めた体制の充実を図っていく。

造形芸術学部については、最終卒業生となる在籍学生に対し、社会で活躍できる人材として卒業することを目標とし、教育課程の担保と学生支援を優先課題として教育・指導に取り組んだ。

また保護者に対しても、学生生活や就職に対する不安の解消に努め、協力を得ながら進めた。卒業判定を満たさない2名の退学者が出たのは残念であるが、36名の卒業と33名の進路が確定できたのは教職員の奮闘・努力によるものといえる。

東京メディア芸術学部については、教職協働による「教学企画室」を設置し、学部教育体制についての継続的な検討、カリキュラムの再構築等を進めている。また、新入学生・留学生数の増

加等に対応するための留学生対応・初年次教育を専門とする専任教員を採用し、学生サポート体制を整えている。今後も高大接続改革に向けた教育内容の充実を図っていく。

看護学部については、教育の質の維持・向上に向けた教員体制づくりとして、教員のFD活動の活性化に努めてきた。また、国家試験対策として、国家試験合格率 100 %を目標に、前年度に引き続き、学内模試や対策講座の実施、低学力学生への個別指導、保護者の協力を得るための懇談会など年次計画に基づき上記の施策を実行した。また、相談員を配置するなど、受験生に向き合う体制づくりも心掛けてきた。しかし、2019年3月の看護師国家試験合格率（新卒・既卒）は 79.6%となり目標達成に至らなかった。そのため原因分析を行い、更なる改善取組みを行いながら、学生自身が主体的に国家試験対策の学習に取り組めるように支援体制を検討していく。

3. 教育研究活動

(1) 教員の研究活動

① 公的研究費（科研費等）のコンプライアンス教育等

毎年9月に法人本部事務局による「科研費公募要領等説明会」を行なっている。また、民間研究費助成については掲示板や回覧、インターネットを通じて共有している。

科研費交付を受けている研究代表者・分担者、学長、学部長、研究科長、専攻科長、事務長及び科研費によって購入された物品等の検収に携わる職員に対しては、「研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン（実施基準）」に係るコンプライアンス教育用コンテンツ及び「研究活動における不正行為への対応等に関するガイドライン」に係る研究倫理教育教材（「科学の健全な発展のために－誠実な科学者の心得－」（テキスト版））を受講・通読してもらい「公的研究費の使用にあたっての誓約書」の提出をもって、受講確認をしている。

② 科研費等・学長裁量経費の実施状況

【科研費等交付状況】

（単位：千円）

区分	教員氏名	補助事業期間	研究種目	研究課題名	上段：補助事業期間全体の直接経費合計 中段：補助事業期間全体の間接経費合計 下段：H30の直接経費合計
日本学術振興会	日高庸晴	H28～H30 2016～2018	基盤(C)	網膜色素変性患者の生活の実態と心理・社会的背景要因に関する研究	3,700 (1,110) 900
	上山直美	H29～H31 2017～2019	基盤(C)	父親への育児支援情報を多角的に発信するサービスシステムの普及に関する研究	3,600 (1,080) 1,200
	合田友美	H28～H30 2016～2018	基盤(C)	看護系大学における新人看護教員を支えるメンタリングガイドブックの開発	2,800 (840) 600
	伊佐夏実	H28～H31 2016～2019	若手(B)	社会的包摂を目指す学校づくりのアクションリサーチ	1,600 (480) 500
	大江真人	H28～H31 2016～2019	若手(B)	うつ病休職者を対象とした就労継続支援モデルの開発と評価	1,800 (540) 500
	篠田雅人	H30～H33 2018～2021	基盤(C)	人文科学系学士課程教育の教育的意義－社会的レリバンスの質保証の観点から－	3,400 (1,020) 1,700

厚 労 省	日高庸晴	H29～H31 2017～2019	エイズ対策 政策研究事業	都市部の若者男女におけるHIV感染リスク行動に関する研究	29,690 (8,907) 11,000
そ の 他	西田千夏	H29～H30 2017～2018	日本生命財団 「財団40周年 記念特別事業 児童・少年の 健全育成助成 委託研究」	要発達支援児を育てる親 の内省に焦点を当てた親 支援講座の効果検証	1,000 (0) 0

【学長裁量経費受給状況（2018年度）】

	申請者（第1期）			取組課題名	取組実施者	
	所属	職位	氏名		職位	氏名
01	東京メ ディア	准教授	吉岡章夫	東京ゲームショウ2018 出展	教授	井上幸喜
					准教授	吉岡章夫
					助教	増田宗嶺
02	東京メ ディア	教授	北見 隆	大学教育研究フォーラムにおける本学部教育事例の発表と他大学の教育事例調査	教授	北見隆
					助教	橋口静思
					助手	中里智美
03	東京メ ディア	教授	櫻木晃彦	学修支援・学修内容の先駆的取組に関する他大学事例研究	教授	櫻木晃彦
					助教	橋口静思
04	東京メ ディア	准教授	渡邊哲意	地方における連携活動とワークショップ環境の整備	教授	渡邊哲意
					特任講師	田島悠史
05	東京メ ディア	准教授	中村泰之	地域連携活動におけるワークショップを通じた学習環境デザインの構想と実践、および研究成果発表	准教授	中村泰之
06	東京メ ディア	専任 講師	近藤真彫	初年次教育充実化に関する他大学の調査	専任講師	近藤真彫
					助教	橋口静思
07	東京メ ディア	助教	橋口静思	学生が主体となる地域アートイベントの実践を通じた教育活動、並びに現代アート・アートプロジェクト研究の成果発表	助教	橋口静思
08	東京メ ディア	助手	石川雄仁	東京都新宿区における地域連携拠点およびワークショップ拠点の整備	助手	石川雄仁
					教務助手	武藤雄太
					教務助手	坂口 茜

09	東京メディア	助手	中里智美	若手教員による初年次教育をはじめとする学部教育・学外教育改善の取り組み	助手	中里智美
10	東京メディア	助手	和田歩美	グッドデザイン賞への出展を通じたアクティブラーニング型デザイン教育の実践	助手	和田歩美
					教授	渡邊哲意
					特任講師	田島悠史
11	看護	准教授	合田友美	子どものイメージ化を図るVR教材を用いた小児看護学演習の取り組み	准教授	合田友美
					専任講師	西田千夏
					助手	林 朋博
12	看護	専任講師	西田千夏	リアリティのある小児看護学技術演習を目指して- 乳児と家族の参加によって及ぼされる学生への影響 -	専任講師	西田千夏
					准教授	合田友美
					助産准教授	小神野雅子
					助産助教	中尾幹子
					助手	林 朋博
13	看護	教授	山本裕子	「アセスメントガイド」の作成	教授	山本裕子
					准教授	梅川奈々
					助手	森脇美咲
14	看護	専任講師	大串晃弘	効果的な国家試験の学習を促す学生を運営主体とした共同学習グループの組織化	専任講師	大串晃弘
15	看護	専任講師	箕越功浩	看護学生でもできるフットケア	専任講師	箕越功浩

	申請者 (第2期)			取組課題名	取組実施者	
	所属	職位	氏名		職位	氏名
16	東京メディア	専任講師	高田美苗	イタリア・プレシアでの日本文化交流イベントに参加し、日本のアニメ・マンガ -海外での現象と現状の認識- の調査と当大学の広報を行う	教授	北見 隆
					専任講師	高田美苗
					教務助手	菊入百合子
17	東京メディア	専任講師	市野治美		専任講師	市野治美
18	東京メディア	教授	竹内一郎		教授	竹内一郎
19	東京メディア	専任講師	芦谷耕平	専任講師	芦谷耕平	

20	東京メディア	専任講師	仁藤 潤	スタジオ撮影の環境整備と教育の向上	専任講師	仁藤 潤
21	看護	教授	八田勘司	学生に日本芸術療法学会主催の研修セミナーを受講させ、認定芸術療法士の資格を取得する	教授	八田勘司
22	看護	教授	巽 圭太	日本語読解力と計算力の評価・指導と、学修力との関連の検討	教授	巽 圭太

③ 研究倫理審査状況

年度	申請者	申請件数	承認	条件付	迅速審査	不承認	非該当	継続審議
2016年度	教員（専門）	12	7	0	3	0	1	4
	教員（他）	1	1	0	0	0	0	0
2017年度	教員（専門）	17	12	0	0	1	1	3
	教員（他）	3	3	0	0	0	0	0
2018年度	教員（専門）	9	7	4	2	1	0	3
	教員（他）	2	0	0	2	0	0	0

④ 大学紀要の発行

教員の個人教育・研究業績を掲載した「宝塚大学紀要」は年1刊の発行としており、2019年3月版（2018年度の実績報告）で32冊目の発刊となる。造形芸術学部、東京メディア芸術学部、看護学部・助産学専攻科が合同で編集し発刊している。

【宝塚大学紀要 No. 32（2019年3月31日発行）】

造形芸術学部		
研究報告	「地域デザイン研究ノート」	北澤嘉浩
	拡張する創発アニメーション	吉田 浩
	映画における音楽の効果についての考察（3） - 台詞によるさまざまな映画演出 -	沼田浩一
	子どもを生き育てることにかかわる理想と現実 - 子育て世代のライフスタイルから -	角南登紀子
	デジタル環境の変化とその考察	植松陽一
活動報告	2017～2018年の展示と作品について	木村智博
	シナリオ「国及び地方公共団体の責務とは」 - らい予防法と無らい県運動 -	高橋一郎
	子どもたちを育む里山のデザイン	中村伸之
作品	《Asyl》 " Asylum "	児玉靖枝
	幾度も、幾重にも現れる	増田妃早子

東京メディア芸術学部		
論文	トリフェリアのサミコンのアクロポリスの周壁	勝又俊雄
	ダヴィテが奏でる宇宙の音楽 - 「シトーの聖書」の詩編扉絵 -	近藤真彫
	在日美術系中国人留学生の特徴に関する一考察	李 春
研究報告	ワークショップからコンサルティングへ - 人口減少社会における少人数制ワークショップの提案 -	田島悠史
	宝塚大学東京メディア芸術学部のラーニングスタッフ制度 の設立と運用に関する報告	橋口静思・大和敬朋 西村 悠
	クリエイティブ教育導入における初年次教育の有用性について	中里智美・川上 遥 石川雄仁・和田歩美 菊入百合子
作品	Face2characters	北村伊知郎
	GREAT LUCKY series	梁 亜旋
看護学部・助産学専攻科		
文献検討	「看護の統合と実践」実習に関する文献検討 - 第4次カリキュラム適用後の学生の学びから -	上山直美 堀 陽子
	国内におけるうつ病患者を対象としたレジエンス研究の方向性	大江真人・大串晃弘 八田勘司
実践報告	臨床看護師と共に創る小児看護学技術演習における学生の学び	合田友美・西田千夏 林 朋博・岡本智子 中元綾奈

(2) 点検・評価（教育・研究活動）

毎年9月・10月に教員を対象に科学研究費のコンプライアンス教育研修を実施している。

2018年度は科研費等7件、学長裁量経費22件が採択され、看護学部の研究倫理審査では11件の申請に対し7件が承認された。また、大学紀要の発行を通じて、教員の教育研究の成果を研究報告、活動報告として発表している。科研費の採択まではハードルが高いという実務系の若手教員に研究・論文作成を促すため、学長裁量経費への応募を促進した。教育・研究活動への取り組みとその成果報告は、教員と教育の質向上に必要な不可欠であるとの認識と自覚を促していきたい。

4. 学生支援

(1) 学生支援の主な取組み（学生相談室やチューター制度、学内奨学金等による支援）

・学生相談室（臨床心理士等 専門カウンセラー相談）

	開室日数		開室時間	相談件数
	週	年間		2018年度
宝塚キャンパス	2日	65日	13:00～17:00	19件
東京新宿キャンパス	月1～2日	12日	11:00～15:00	23件
大阪梅田キャンパス	週1～2日	66日	12:00～18:00（木） 12:00～16:00（土）	133件

・学習支援要員・サポート制度の運用状況

【東京メディア芸術学部】

SA（スチューデントアシスタント）とLS（ラーニングスタッフ）の制度を設けている。SAはコンピュータ科目などの実技系授業において学生をサポートしている。また、初年次教育をサポートするLSは上級生より希望者を選抜し、事前にコーチング研修などのトレーニングを行いメンター役として新入生を1年間サポートしている。

【看護学部】

専任教員で構成したチューター制度を設け、チューター1名あたり15名程度の学生を1年次から継続的にサポートしている。各ガイダンスの履修期間内には、GPAをもとに単位修得状況を確認しながら、マンツーマンの履修指導を行い、欠席が多い学生に対しては個別面談による学習継続を促す支援をしている。また、国試及びキャリア教育のために、教職経験者を学生支援員として複数配置した。

・宝塚大学独自の奨学金及び給付額等の実績（2018年度）

【宝塚大学奨学金制度】

種類	応募数	採用者数	給付実績額	採択率
1. 一般奨学金制度	58名	33名	990万円	56.9%
2. 特別奨学生制度	24名	10名	770万円	41.7%
3. 創作・研究活動奨励制度	1名	1名	10万円	100%
	(奨学金の給付額計)		1,770万円	全体53.0%

※給付額〔一般奨学金30万円 / 特別奨学金75万円・80万円 / 創作・研究活動奨励金10万円〕

【スカラシップチャレンジ制度（東京メディア芸術学部 2019年度入学者対象）】

種類	応募数	採用者数	減免対象者	採択率
スカラシップチャレンジ制度 (入学前予約型奨学金制度)	8名	8名	①全額免除3名 ②半額免除5名	100%
	(入学前奨学金の減免額計)		825万円	全体100%

※減免額〔①授業料全学免除90万円 ②授業料半額免除45万円〕

【支援金制度（東京メディア芸術学部）】

種 類	応募数	採用者数	給付実績額	採択率
1. 留学生日本語試験支援金	10名	10名	10万円	100%
2. 資格取得支援金	19名	19名	57万円	100%
3. 一人暮らし支援金	5名	5名	120万円	100%
	(支度金の給付額計)		187万円	全体 100%

※給付額〔留学生日本語試験支援金3万円 / 資格取得支援金1万円 / 一人暮らし支援金24万円〕

(2) 健康相談・メンタルケア

【造形芸術学部】

学生相談室を設置し、相談員（臨床心理士）による個別のケアを行っている（週2日・計8時間開室）。医務室は職員が交替で対応しており、緊急時は教職員が同行のうえ、近隣病院へ搬送する態勢を整えている。

【東京メディア芸術学部】

メンタルケアについては近隣のメンタルクリニックと提携し、学生の事情に合わせて医師と相談できる場を設けている。また、相談員（臨床心理士）による学生相談も毎月、日時を決めて実施している。学生の個人情報には十分に配慮し、必要に応じて保護者、担当教職員とも連携しながら学生支援につなげている。

【看護学部】

チューター制度、オフィスアワー、学生相談室（臨床心理士が在室）を設けており、学生個々の様々な悩みから学習相談まで幅広く対応できる態勢をとっている。

(3) 学生自治会、サークル等のクラブ活動

【造形芸術学部】

バスケットボール、漫画・アニメ研究会、役者工場伝染柱、ゲーム制作、映像制作、写真サークルTAPなど6つのサークルがクラブ活動を行い、宝翔祭など学内のイベントにも学生自治会と協働しながら活動した。

【東京メディア芸術学部】

サークル活動を促進するため、公認サークル、同好会、任意団体の3種類を設け、自治会費から活動補助資金を支給している。公認サークルでは、軽音、コスプレ、まっちゃぶ、グループ創造、イラスト研究会の5つが継続的に活動している。また、選挙で選ばれた学生による自治会が毎年度、新規に発足し、新入生歓迎会、宝翔祭など学生主体のイベントを自主的に運営している。

【看護学部】

学生が自主的に行うサークル活動は、人間関係やコミュニケーション能力といった社会で必要とされる能力を身につけられる場でもある。フットサルサークル、球技サークル、野球サークル、茶道サークル、フラワーセラピーサークル、ボランティアサークル、ちんどんサークルの7サークルが活動しており、学内外で有効な活動ができるよう活動費の支援等も行っている。

(4) 保護者対象の教育懇談会

毎年、学部単位で在籍学生の保護者を対象に教育懇談会及び保護者懇談会を実施している。各学部の教育内容、年次ごとの単位数修得の基準、就職支援と就職実績等について説明し、希望する保護者には教職員及びキャリアセンター職員と個別面談を行い、保護者の意見も踏まえ、教育活動や学生指導にも反映できるように教職員間で共有をしている。

【2018年度教育懇談会 / 保護者懇談会の実施状況】

学部名	開催日	参加者数・組
造形芸術学部	2018年5月20日	8名
東京メディア芸術学部	2018年6月10日	62名
看護学部	2019年2月23日	39組

(5) 留学生支援の体制（東京メディア芸術学部）

2018年度の入試状況から留学生の増加を予測し、以下の留学生支援体制を決めた。学務課に留学生支援係を置き、専門職員2名及び留学生担当教員2名を採用した。初年時教育では語学能力別の留学生クラスを設置した。留学生保護者にはウイチャット連絡網による連絡相談体制を整えた。1年次から全員と個別面談を行い、学習満足度アンケート調査を実施した。また、2年次以降の留学生サポートを協議し、日本語能力向上のための会話ルームを設置した。2019年度に向けて、N1資格取得の促進と、そのための試験対策講座の新設を検討している。

(6) 点検・評価

学生生活の満足度を高めるために、学生や教職員から出された意見についても、学部ごとの各委員会や教授会で協議し、学長、事務局長が取りまとめ、管理運営協議会で審議し執行する体制になっている。また、奨学金については、申請希望者が増えているため、2018年度より「入学前スカラシップチャレンジ制度」と「各種支援金制度」を新設し、奨学金制度の充実を図った。

保護者を対象にした教育懇談会は、各学部の開設当初より、全教職員体制のもとで毎年継続的に実施しており、保護者との連絡や協力を得ながら教育活動を進めている。また、学生相談の希望者が増えてきた現状を踏まえて、2019年度より両学部とも、相談日を増やす態勢にしている。

5. キャリア支援体制と卒業生の進路状況

(1) 学部生・大学院生・留学生へのキャリア支援

【造形芸術学部】

卒業生全員の進路を決める目標を設定し、学生の状況や希望に合わせた具体的支援が行えるよう教職員が協働して学生情報を収集し、個別キャリアカウンセリングを徹底した。また、求人情報をスマートフォン上で閲覧できるように「LINE@」を使った就職情報を配信し、専門業界を目指す学生向けの就活支援講座や卒業生セミナーの開催など、学生のニーズに合わせた支援を充実させた。さらに、兵庫県の補助金事業である「県内大学と連携した就活支援事業」には3期連続で採択され地域の地元関連企業と連携した。この結果、就職率90%までに至った。

【東京メディア芸術学部】

就職支援委員会を中心に教職協働体制のもとで学生情報の共有を図りながら、学生個々に対して具体的・個別的なカウンセリングを行った。また、ポートフォリオのアーカイブ計画は、初年次教育から指導を行い、学生と教員に浸透してきたが、就活時に役立つ質向上のための改善取り組みが必要で継続的に協議をしている。2017年以降3年連続で就職内定率は9割を超えた。

【看護学部】

看護学部生の増加や離職率の減少などの社会の変化に伴い、他職種との連携ができる能力など看護師ニーズも変化している。学生の希望する病院施設等への就職も年々厳しくなっているため、就職にかんするイベントは前年度よりも前倒しをして実施した。また、就職試験で問われる「実習目標を達成する行動への取り組み」とそれを伝えられる「言語表現」能力が求められているため、「就活スタートアップ講座」や「就職・施設説明会」等への参加率100%を目標に進めていく。

【留学生】

留学生は日本語能力の問題や職種が限られるなどの制限もあり、国内における就職率は3割前後である。東京新宿キャンパスでは、留学生担当の教職員4名を採用し、就職支援委員会及び東京外国人雇用サービスセンターと連携しながら、留学生就職ガイダンスの実施など就活サポートをしている。

(2) 2018年度卒業生の進路状況 (2019年5月1日現在)

	造形芸術学部	東京メディア 芸術学部	看護学部	メディア造形 研究科(修士)
卒業生数(9月卒業生含む)	39名	64名	93名	14名
進学者	0名	2名	2名	0名
就職者 (就職希望者数)	29名 (31名)	49名 (51名)	74名 (74名)	4名 (10名)
卒業後就活継続者	2名	2名	0名	6名
その他(未就職者・帰国等)	8名	11名	17名	4名
就職率(就職者/就職希望者数)	93.5%	96.0%	100%	40.0%

・進路先（就職先企業・病院など特色）

【造形芸術学部】

卒業生全体に占める就職者の割合は74.3%となった。

就職内定者の産業別割合は、情報通信業20%、その他専門・技術サービス業20%、小売業20%、その他サービス業16%であった。

【東京メディア芸術学部】

卒業生全体に占める就職者の割合は76.5%となった。

就職内定者の職業種別では、クリエイティブ系36.8%、それ以外の一般職61.3%となった。

アニメ・ゲーム・デザイン・映像等の制作するクリエイティブ系企業への志望者が少なかった。

その他は、帰国及び特定活動（日本で就活するための在留許可申請）の留学生や未就活の学生であった。

【看護学部】

大学病院や企業系病院などへの就職は、採用人数の絞り込みもあり就業が厳しい中にもかかわらず、2019卒学生の希望者全員が病院への就職を果たすことができた。

その他の16名中、国家試験不合格14名、不受験2名、合格するも就職しない学生が1名であった。

【メディア造形研究科】

大学院研究科の在籍学生の14名のうち13名が留学生である。日本で就職を希望する学生10名中、内定した学生4名はゲーム・アニメ制作とデザイン制作会社等のクリエイティブ系職種であった。その他は、帰国者4名、特定活動の申請者は6名であった。

（3）点検・評価（キャリア支援体制と卒業生の進路状況）

学部の卒業生が最終年度となる造形芸術学部では、卒業生全員の進路を決めるため、教職員協働によるサポートを行ない、就職希望者の9割以上の学生が就職内定を得ることができた。

東京メディア芸術学部では、就職支援委員会を核に、教職協働によるサポート体制を作り、学生個々の特性を把握したうえで、きめ細かいキャリアカウンセリングに取り組んだ結果、3年連続で95%前後の就職内定率につなげている。

看護学部では看護師国家試験合格の取組みと併せて、希望する就職先につなげられるよう支援をしており、国家試験合格者は全員が就職を内定させている。

日本学生支援機構の調査では、留学生の日本での就職状況は3割程度であり、厳しい現実是不変変わらない。次年度以降、3割を占める留学生が在籍するメディア芸術学部においても、留学生のキャリアサポート体制を整えていかねばならない。

また、希望者の就職は実現できているが、希望しなかった学生で進路が未定のまま卒業していないかどうかの点検も必要である。

6. 図書館の整備と利用状況

(1) 図書資料の所蔵状況と施設・設備と利用状況

【施設の実態】

施設 (2019年3月31日現在)				
	用途別面積 (㎡)			閲覧座席数 (席)
	サービススペース	管理スペース	合計	
宝塚	881.0	415.0	1,296.0	266
梅田	291.0	25.0	316.0	90
新宿	249.0	13.0	262.0	52
合計	1,421.0	453.0	1,874.0	408

【図書、雑誌】

蔵書数 (2019年3月31日現在)			
	図書	雑誌	電子ジャーナル
宝塚	62,502	356種	0
梅田	15,619	99種	9
新宿	20,533	30種	0
合計	98,654	485種	9

【視聴覚資料】

視聴覚資料・機器数 (2019年3月31日現在)						
	マイクロ フィルム	カセット テープ	ビデオ テープ	CD・LD・VD・ DVD-ROM・ レコード [※]	スライド	合計
宝塚	1	56	0	1,152	4,373	5,582
梅田	0	0	34	657	0	667
新宿	0	0	18	2,344	0	2,362
合計	1	56	52	4,135	4,373	8,611

【利用状況】

2018年度図書館利用状況	
貸出冊数・宝塚	378
貸出冊数・梅田	5,773
貸出冊数・新宿	1,266
全館貸出合計	7,417

【開館時間】

	開館時間 (2018年度)			
	平 日	土 曜	長期休業期間中	看護実習期間中
宝 塚	9 : 00～17 : 00			
梅 田	9 : 00～20 : 00	9 : 00～17 : 00	9 : 00～16 : 45	9 : 00～20 : 00
新 宿	9 : 00～20 : 00		9 : 00～19 : 00	

(2) 点検・評価

各キャンパスの図書館において、学生選書、教員選書コーナーを設けるなど利用者の意見を反映した蔵書・選書を実施している。

東京新宿キャンパスでは、貸し出し等の利用率の向上を図るため、ニュースレターで紹介された書籍の書架を設け、先輩ポートフォリオを展示するコーナーを設けた。また、図書館の利用方法についてガイダンスを実施した。

大阪梅田キャンパスでは、看護学部の教育・学習・地域活動の支援のため、宝塚所蔵の資料を適宜移送する体制を整えるなど、宝塚キャンパス図書館との協力関係を図っている。また、施設面では、暖房環境を改善、OPAC用スタンドアップデスクの設置、絵本コーナーを設置した。

また、教員研究を支援するために、国立国会図書館のデジタル資料送信サービスの利用についても進めている。

7. 施設・設備等

(1) 施設・設備、教育環境の改善・整備等

宝塚キャンパスは、パソコン・プリンタの集約とレイアウト変更により学生の作品制作環境の改善を図るとともに、一部障害が発生した空調設備の早急な改修を行い、教育環境の維持・改善に努めた。

東京新宿キャンパスは、改修計画策定のもとで校舎西側壁の防水工事及び女子トイレの全面改修を行なった。また、904・905教室のパソコン機材一式を更新するなど教育環境の充実を図った。

大阪梅田キャンパスは、702・401教室のパソコン機材及びプロジェクター機材一式を更新し、図書館にスタンディング・デスクを設置した。また、学生ラウンジ床面をリノリウムに張り替え、快適な学習環境の整備に努めた。

[教育環境整備等のための事業費]

① 大学全体

・全学ネットワーク環境設備更新 事業費 29.4百万円

② 東京新宿キャンパス（東京メディア芸術学部）

・キャンパス女子トイレ改修工事 事業費 22.3百万円

・演習室・講義室のプロジェクター更新 事業費 9.2百万円

・演習室のパソコン更新 事業費 3.4百万円

③ 大阪梅田キャンパス（看護学部）

・キャンパス外壁シートサイン増設 事業費 2.1百万円

・教室プロジェクター更新 事業費 1.9百万円

(2) 点検・評価

建物は、宝塚キャンパスは大学設立当時の施設（本館の一部・円形棟）が築32年、梅田キャンパス、新宿キャンパスはそれぞれ築17年、築25年となり、経年劣化に伴う計画的なメンテナンス・改修の実施が不可欠となっている。

また、設備については、教室のLED化、ネットワークの大規模改修、PC機器の更新、東京メディア芸術学部専任教員増に伴う研究室の確保、トイレ改修など、在学生に快適な学修環境と学生生活環境を提供することを目的に実施対応と計画を進めている。東京新宿キャンパスにおいては、現在、学外企業への1階賃貸部分について契約解除を求めており、環境・設備の更なる充実を図る予定である。

8. 危機管理体制

(1) 防災体制・安全対策・危機管理体制

学内における危機管理体制は、学校法人関西女子学園危機管理規則に準ずる。自然災害・人的災害・保健衛生・経営管理等、発生する可能性のある諸般の事情に伴う危機に迅速かつ的確に対応するため、情報伝達のルートとして「学校法人関西女子学園 宝塚大学 管理職緊急連絡網」等を利用し、情報を「法人本部事務局長及び大学事務局長」へ集中一元化するシステムとなっている。更には、近年、東京でも大阪でも、地震や暴風雨等による自然災害が多発しており、防災対策の整備が喫緊の課題となっている。そのため、災害対応マニュアルの作成、安否確認システムの構築、防災備蓄体制の整備等に向けて具体的な検討を進めており、一部は2019年度中に実施予定である。

(2) 点検・評価

各キャンパスにおいては、毎年、教職員・学生による避難訓練を実施しており、火災等に対する避難誘導や初期消火の対応はできるようになっている。また、緊急対応食料・備品の備蓄については、東京新宿キャンパスは、食料・飲料水・医薬品・簡易トイレ等の備蓄品目を毎年点検している。看護学部についても、備蓄品目の追加設置を計画している。

危機管理体制については規程があり、緊急時の対応システムは構築されているが、内容が十分とはいえ、また、教職員の異動に伴う連絡網の周知が滞りがちである。また、緊急対応マニュアル等について教職員への周知徹底がなされているかどうか、キャンパスごとの確認が必要である。危機発生時は対応する教職員も被災者になる可能性が高いので、現行の規程・マニュアルを原則にして、柔軟にかつ迅速・的確な対応ができるような見直しをしていく。

9. 広報活動

(1) 主な広報活動

東京メディア芸術学部では、高校生と直接接触できる広報活動に取り組み、入試相談会、高校説明会、出張授業など178件に参加し、大学キャンパス自由見学会を常時開催した。

また、関東圏以外の広報活動として、「交通費補助制度」の活用と「一人暮らし支援金制度」を導入した。さらに学部の特色でもある学外連携活動をタイムリーにニュースリリースしたことで、企業からの直接取材や連携事業の依頼も増えた。オープンキャンパスを担当する学生スタッフの指導にも力を入れて取り組んだ。

看護学部では、学生募集における広報戦略の見直しを図り、以下の広報活動を展開した。従来の交通広告の中で、費用対効果が低いものを取りやめ、その分WEB広告に重点を移した。WEB広告業者とも連携し広報戦略を立て直すこととした。

一般入学選考では志願者数が前年比約70%となったが、他大学の看護学部でも同様の傾向が見られるため、専門業者の情報も得て結果分析を行い今後の対策を立てた。次年度においては、高大連携を強化し、学部の特長をアピールした広報活動に取り組む。

(2) 点検・評価

・ブランド力向上のための広報施策を実施するため、各学部の特色ある授業や学内外の活動をはじめ、教育研究活動がうまく情報発信できているかとの視点で広報活動全般の見直しを行った。とくに地域・社会連携の実績は、ホームページをはじめ、SNS、Twitter等でニュース配信を行った。

・東京メディア芸術学部のオープンキャンパスでは、業界で活躍する著名人を招いて特別講義を行い、オープンキャンパス参加者数の増員に努めた結果、オープンキャンパスでは前年比+56名(1.08倍)となり、志願者数では+77名(1.49倍)になった。

・2019年度から教育活動の主体となるのは、東京新宿キャンパス(東京メディア芸術学部)と大阪梅田キャンパス(看護学部)の2キャンパス(2学部)体制になるため、大学ウェブサイト等の情報発信と計画的なサイト運営についての継続的な改善協議を進めていく必要がある。

今後、広報について、単に志願者確保を狙った入試広報に限定するのではなく、大学の強みや特色をしっかりと打ち出しながら、大学の認知度を高めつつ、本学の社会的存在意義を発信できるように広報戦略を確立する必要がある。2019年度には、法人本部内に「広報・企画室」を設置することにしており、全学的な活動を強化していく。

10. 地域社会・地方自治体との連携活動・社会貢献

(1) 各キャンパスの取組みと活動実績

【造形芸術学部】

- ①のせでんアートライン実行委員会参画（2018年4月）
- ②川西市文化・スポーツ振興財団ロゴマークデザイン制作（2018年4月）
- ③川西市上下水道局記念モニュメントデザイン制作（2018年9月）
- ④川西市市長選挙・市議会議員選挙選挙啓発横断幕等デザイン制作（2018年10月）
- ⑤大阪市北区芝田商店街50周年記念タペストリーデザイン制作（2018年10月）
- ⑥コミュニティひばり「ひばり祭り」会場提供及び開催協力（2018年11月）
- ⑦北大阪急行電鉄クリスマス絵画教室の運営協力（2018年12月）

【東京メディア芸術学部】

- ①霞ヶ関ビル竣工50周年記念イベント、「デジタル掛け軸」参画（2018年4月）
- ②東京オリンピック・パラリンピック 777 日前イベント、トリックアート展示（2018年6月）
- ③「キッズエンターテインメントアワード」映像と舞台照明で演出（2018年8月）
- ④しいのき迎賓館（金沢市）「デジタル掛け軸」の空間照明アートの演出（2018年8月）
- ⑤茨城県みなとメディアミュージアム主催ワークショップ、列車のヘッドマーク制作（2018年8月）
- ⑥「第38回関東誠鏡会総会」プロジェクションマッピングで空間演出（2018年9月）
- ⑦宝塚歌劇月組OGによる舞台『月とサンポーレ！！』映像演出で参画（2018年10月）
- ⑧伊東商業高校とコラボ、地域活性化のトリックアートを制作設置（2018年10月）
- ⑨伊東市商店街連盟の地域活性化プロジェクト「キンメの滝登り」制作展示（2018年10月）
- ⑩伊東商工会議所と学外連携事業、オリジナル包装紙の開発でデザイン担当（2018年10月）
- ⑪「新宿スポレク」に映像体験コーナーを出展（2018年10月）
- ⑫東京ボランティア・市民活動センター主催「第4回企業ボランティア・アワード」（2018年11月）
- ⑬伊東市商店街連盟の地域活性化プロジェクト「ソウダガツオ」制作展示（2018年11月）
- ⑭伊東市湯ノ花共栄会主催のフォトコンテストでトリックアートを制作（2018年12月）
- ⑮伊那バス株式会社「100周年記念事業」、ラッピングバスとロゴのデザイン制作（2018年12月）
- ⑯イタリア・アートイベントに参画、アートマガジン『ExtrART』掲載（2018年12月）
- ⑰自動車ディーラー「MINI杉並」のクリスマスパーティーをプロデュース（2018年12月）
- ⑱新宿区健康部と考案したキャラクターの4コマ漫画制作（2018年6月、9月、12月、2019年3月）
- ⑲東京オリンピック・パラリンピックPR「新宿シティドレッシング」新宿区役所内のエレベーターラッピングをデザイン（2019年1月）

- ⑩東京オリンピック・パラリンピック 500 日前記念イベントに参画 (2019年 3月)
- ⑪東京都健康プラザ「ハイジア」主催『桜まつり2019』出展 (似顔絵等) (2019年 3月)
- ⑫東京オリンピック・パラリンピックPR「新宿シティドレッシング」新宿区役所の外壁デザイン (2019年 3月)

【看護学部】

- ①梅田東連合振興町会 清掃活動参加 (2018年 4月 -2019年 3月)
- ②LGBT自治体議員連盟 講演会 (2018年 8月)
- ③大阪府保健医療室医療対策課 講演会 (2018年 8月)
- ④西宮市難病団体連絡協議会 難病講演会「難病を笑いで吹き飛ばそう！
チンドンセラピーの効果」 (2019年 9月)
- ⑤助産学専攻科 プレパパ・プレママ教室 (2018年12月)
- ⑥スペシャルキッズサポーターの集い in 大阪2019 (2019年 2月)
- ⑦助産学専攻科 ベビーマッサージ教室 (2019年 2月)

【看護学部 メディア・新聞報道】

1. 「自分らしく、生きる 宮崎から考えるLGBT：すべての子どもに伝える教育を」
(宮崎日日新聞) (2018年 4月)
2. 「自分らしく、生きる 宮崎から考えるLGBT：親同士で悩み共有できる場を」
(宮崎日日新聞) (2018年 4月)
3. 「LGBTの高校生 3人に1人自傷行為」 (読売新聞) (2018年 4月)
4. 「LGBT『職』支援 通所者『相談できる人できた』 (中日新聞) (2018年年 5月)
5. 「性の多様性は『人権』」 (毎日新聞) (2018年 5月)
6. 「男女『どちらでもない』 X ジェンダーとは? (news every.) (2018年 5月)
7. 「教える側から変える」 (毎日新聞) (2018年 5月)
8. 「性的マイノリティー問題”ソフト”が大事」 (the SOCIAL opinions) (2018年 5月)
9. 「『LGBT』定着しても・・・自由のない世界 配慮望めず」 (毎日新聞) (2018年 5月)
10. 「多様な性受け入れる学校へ 市町村教育長に研修 県教委 8月」 (宮崎日日新聞)
(2018年 6月)
11. 「学校はどの子ども受け入れて都内でシンポ、不安解消を」 (教育新聞) (2018年 7月)
12. 「多様な性 知識や課題学ぶ」 (朝日新聞) (2018年 7月)
13. 「高校生 1万人調査『LGBT当事者と非当事者の比較』 (高校保健ニュース)
(2018年 7月)
14. 「LGBT教育学校が先行」 (毎日新聞) (2018年 7月)
15. 「レインボーフラッグ誕生物語書籍紹介」 (毎日小学生新聞) 2018年 7月
16. 「LGBT配慮 教育の場では」 (東京新聞) (2018年 7月)
17. 「LGBTの子どもたちを支援へ」 (NHK NEWS WEB 北海道 NEWS WEB) (2018年 8月)
18. 「市町村教育長などを対象にLGBT研修会」 (テレビ宮崎) (2018年 8月)
19. 「県教委LGBT研修 全教育長、課長ら対象」 (宮崎日日新聞) (2018年 8月)

20. 「LGBT県教委研修『当事者必ずいる』教育行政トップ意識新た（宮崎日日新聞）（2018年8月）
21. 「学校で配慮が必要なLGBTの子どもたち」（アイユ 8月号（第327号））（2018年8月）
22. 「『虹の旗』生れた経緯に光」（神奈川新聞）（2018年8月）
23. 「同性カップル『パートナー制度』県内導入の動きなし」（朝日新聞 [富山版]）（2018年9月）
24. 「プライムニュース」（BBTチャンネル8）（2018年10月）
25. 「都人権条例に違和感」（東京新聞）（2018年10月）
26. 「多様な性 認め合う社会に」（朝日新聞 [山口版]）（2018年11月）
27. 「“北陸性的少数者に否定的傾向 価値観の共有背景”（北日本新聞）（2018年12月）
28. 「中高生向けのLGBT教材」（毎日新聞）（2019年3月）
29. 「人権教育充実へ研鑽」（北海道通信）（2019年3月）
30. 「LGBTドラマで学ぶ新教材」（読売新聞）（2019年3月）

（2）点検・評価

造形芸術学部及び東京メディア芸術学部は学部開設以来、学内の人的・知的資源を活かして地域の活性化や文化活動の発展に寄与することを目的として、学外連携活動を行いながら、課題解決型の教育・研究を進めてきた。2018年度の実績は、造形芸術学部が川西市を中心とした地域団体及び鉄道会社と連携し、7件の地域学外連携活動を行った。

東京メディア芸術学部は、東京都新宿区と学外連携協定を結び、地域の健康づくり普及啓発の活動に参画している。また、学部教育の特色である22件の学外連携活動を広報するため、常時プレスリリースによる情報発信も行った。

看護学部では、地域行政と連携した講演会や子育て幼児教育セミナー等を7件開催した。その結果、大学全体としては36件の地域・学外連携活動に取り組んだ。また、メディア・マスコミ等に報道された研究活動は30件以上に及んでいる。

学外で行う展示イベントや自治体・企業と連携した創作活動に参加することは、学生が社会と接する体験の場となり、その後の学生生活や就職活動に向けて、学生自身の自己肯定感を高められる貴重な経験の場になっている。

11. 管理運営体制・自己点検評価体制・大学評価審議会

(1) 管理運営体制

学校法人と、法人が設置した大学の適正かつ円滑な管理運営を期するため、管理運営規程の主旨に基づき理事長、学長を中心とした管理運営協議会を設置し、法人及び大学の重要事項について議論するとともに情報の共有化を図り、意思決定事項の速やかな執行を行う機関として機能させている。開催日は原則隔週月曜日とし、2018年度は大阪梅田キャンパス及び宝塚キャンパスで、計24回開催した。構成員は、理事長、学長、副学長、担当理事、大学事務局長、法人本部事務局長及び適宜、理事長が必要と認めて指名を受けた事務局職員である。管理運営協議会で決定された事務管理等にかかわる事項は、大学事務局長、法人本部事務局長、副学長を通して各キャンパスの事務長に共有されている。

(2) 自己点検評価体制

① 自己点検評価の仕組み

自己点検・評価委員会規程に基づき、学内に自己点検評価委員会を設置している。

毎年6月に自己点検評価報告書（アクレディテーション）にまとめ、その実施状況と評価結果について、第三者の有識者からなる「大学評価審議会」で審議を行い、その審議結果は理事長・学長に意見答申する体制としている。

委員会の任務（第3条）は、「本学学部及び大学院における教育課程、教員組織、教育・研究活動、学生の受入れ、施設設備、管理運営体制、社会との連携及び自己点検体制等について絶えず現状を性格に検討・把握し、逐次改善するための点検・評価を行い、報告書を作成する」。

宝塚大学では、各委員の所在が3キャンパスに跨るため、開催日は学部長等会議と同日の隔月で実施しており、2018年度は5月、7月、10月、12月、2月の計5回開催した。

② 2018年度の主な審議内容

- ※ 1. 経営改善計画の中間報告を行なうため、項目を具体化した中期計画を作成について
- ※ 2. 学生アンケート調査の実施内容とIR委員会での分析・活用等について
- ※ 3. 3つのポリシーの点検及び見直しと修正について
- ※ 4. 学内の自己点検・評価報告書の資料作成から委員会による審議時期について
- ※ 5. 前年度の大学評価審議会資料に3項目を追記して、これを自己点検評価報告書（アクレディテーション）とすることについて
- ※ 6. 自己点検・評価報告書のエビデンスとして、2018年度より、学部委員会の取組みをPDCA形式の報告書にまとめ、付則資料とすること

【2018年度自己点検評価委員】

教員	山川学長・南部副学長・山口副学長（研究科長）・吉田学務部長・大河造形芸術学部長・北見東京メディア芸術学部長・岩谷看護学部長
事務職員	小原事務局長・加藤法人事務局長・谷口事務局次長・中島梅田事務長

	田中宝塚事務次長
オブザーバー	成山理事

③ 全学 IR 推進会議の設置と活動状況

・2018年9月にIR担当常勤理事を座長として、全学IR推進会議を発足させた。当推進会議が扱う内容は、教学面の自己点検・評価に資するデータ分析、法人本部の中長期計画策定に必要なデータ収集や分析、学生満足度及び学修行動アンケート調査の実施と分析とし、本会議でまとめた提言は管理運営協議会及び学部長等会議を通し、学長に報告することになっている。2019年度の教育課程（カリキュラム）の改編についても、その適切性を検討し学長に報告を行った。

【2018年度 全学IR推進会議の活動内容】

開催日・開催地	主な審議内容
第1回（9月26日） 東京新宿キャンパス	当会議の趣旨説明、IR活動の主旨及び事例 東京メディア芸術学部IR推進会議の活動事例報告
第2回（12月8日） 宝塚キャンパス	オープンキャンパス参加者のデータ分析、学修行動調査・卒業生 調査結果の分析、各学部カリキュラム改訂に伴う適切性の検討

（3）大学評価審議会

本学の教育研究水準の向上を図り、本学の教育目的と使命を達成するため、教育研究活動及び管理運営について、第三者評価を行うための大学評価審議会を設置している。構成員となる委員は理事会で選出された外部の学識経験者をもって組織され、委員代表と委員副代表を置いている。毎年開催する審議会では、自己点検評価報告書をもとに審議を行い、審議結果を理事長に答申している。理事会は答申により改善等の具体化について適切な措置を講じ、次年度の大学評価審議会で行う。

- ・大学評価審議会は1992年の大学開設以来、毎年開催しており、第2期大学認証評価では「優れた取組み」として評価されている。

【2018年度 宝塚大学 大学評価審議会委員】

氏名	経歴
西村 嘉郎（委員代表）	元朝日放送(株) 代表取締役社長
田淵 晋也（委員副代表）	大阪府立大学名誉教授 宝塚大学名誉教授
大塩 民生	前 川西市市長
野村 正朗	帝塚山学院理事長 元 (株)りそな銀行代表取締役社長
日笠 修宏	元 朝日新聞社取締役・常勤監査役
リボウィッツよし子	元 青森県立保健大学理事長・学長
雨宮 照雄	元 三重短期大学学長、名誉教授
武 幸太郎	元 内田洋行(株)取締役専務執行役員
高田 哲	神戸大学医学部保健学科 名誉教授

(4) 点検・評価

大学自身が自らの責任でもって教育研究活動等について多角的な視野から振り返りを行い、その質の改善・向上を目指した取組みをするとともにその結果を社会に向けて明確に示していく必要があり、その全てについて「スピード感」が問われている。2018年度、その振り返りについては可能な限りデータ分析が行えるよう全学的なIR推進を行ってきた。今後はエビデンスに基づく将来計画を進めていくとともに、自己点検・評価の仕組みの精度を上げる取組みが必要である。

管理運営体制については、性質を異にする3学部3キャンパス体制、特に関西の2キャンパスから遠隔地となる東京新宿キャンパスに副学長を増員し、副学長2名体制による運営の円滑化を図った。また、法人本部機能強化のため、法人本部内に「広報・企画室」と「将来構想企画室」の設置準備を進めている。

学部/委員会名		造形芸術学部 教務委員会
設置根拠		造形芸術学部 教務委員会規程
構成員 (事務担当含む)	教員	吉田(委員長)・北澤・林・木村・沼田・伊佐
	職員	田中和・田中康・山口

<p>[1. 主な審議項目]</p> <p>① 2018年度授業について</p> <p>② 学生の単位修得について</p> <p>③ 後期ガイダンスについて</p> <p>④ 特別講演会の開催と内容について</p>
<p>[2. 審議結果及び実施状況]</p> <p>① デッサン、クロッキーなどの学生に特に必要な科目は開講してスキルアップを計ることを決定した。</p> <p>② 卒業に必要な単位修得を目指し、個別に学生の履修・出席状況の情報を集め研究室幹事の指導に役立てた。</p> <p>③ 適切な履修指導のための留意事項を確認した。</p> <p>④ 卒業生6名による座談会形式で卒業制作展にて開催した。</p>
<p>[3. 総括及び改善点]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 在学生の卒業までに必要なスキルアップと単位修得のために様々な対応を協議して行なった。 ・ 卒展期間中に特別講演会を開催して社会に旅立つ在学生のモチベーションの向上を図った。 ・ 講演会には多くの在学生の参加があり、卒業を目前にした在学生へのプレゼントになった。 ・
<p>[4. 次年度に向けての取り組み]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学部の最終卒業年次のため記載なし ・ ・ ・

学部/委員会名		造形芸術学部 学生委員会
設置根拠		造形芸術学部 学生委員会規程
構成員 (事務担当含む)	教員	水上(委員長)・岡田・角南・神澤・澤田・長久保
	職員	田中和

<p>[1. 主な審議項目]</p> <p>① DRP(退学予防プロジェクト)対象学生について</p> <p>② 宝塚大学奨学金制度推薦者選考</p> <p>③ クラブ・サークル活動について</p> <p>④ 造形芸術学部卒業生に対する支援について</p>
<p>[2. 審議結果及び実施状況]</p> <p>① 退学予防対象者に対して年間を通じて継続的にサポートを行った</p> <p>② 成績・家計基準に基づき造形芸術学部の採用枠に則った宝塚大学奨学金採用推薦者を決定した</p> <p>③ クラブ・サークル活動の年間活動状況・助成金活用状況の報告を受けた</p> <p>④ 支援策をまとめ学長・副学長への提案を行った</p>
<p>[3. 総括及び改善点]</p> <ul style="list-style-type: none"> 学生数の減少に伴い学生委員会の活動やその成果・達成感も得られ難くなる中、委員の先生方は学生の利益を最優先に考え真摯に活動に取り組んだと自負する。 最終年度に退学者を持ったことは、我々の力不足であったと悔やまれる。
<p>[4. 次年度に向けての取り組み]</p> <ul style="list-style-type: none"> 学部の最終卒業年次のため記載なし

学部/委員会名		造形芸術学部 就職委員会
設置根拠		宝塚大学 就職委員会規程
構成員 (事務担当含む)	教員	葛佐(委員長)・児玉・長久保
	職員	会田・北

<p>[1. 主な審議項目]</p> <p>① 個別面談</p> <p>-----</p> <p>② 就職支援</p> <p>-----</p> <p>③ 情報公開</p> <p>-----</p> <p>-----</p> <p>-----</p> <p>-----</p>
<p>[2. 審議結果及び実施状況]</p> <p>① 卒業年度生と面談にて個別相談とアドバイスを送る</p> <p>-----</p> <p>② 就職支援サイトへの登録、面接の受け方、履歴書の作成のサポート</p> <p>-----</p> <p>③ 企業からの募集要項、相談会等、LINE@にて公開</p> <p>-----</p> <p>-----</p> <p>-----</p>
<p>[3. 総括及び改善点]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 就職希望学生とは、ほぼすべて個別面談を行うことができ、それぞれ個別の相談とアドバイスができ ・ 企業からの募集情報や相談会セミナー等、多くの情報を学生たちに伝えることができた。 ・ 目的を持って就活した学生には適切なアドバイスができたと思う。 ・ 改善点としては、就職はしたいが何の職に就きたいかわからないままの学生が多いのが目についた。また自分の能力とかけはなれた業界を希望する学生、就職自体をしたくない学生も若干名いた。 <p>-----</p> <p>-----</p>
<p>[4. 次年度に向けての取組み]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学部の最終卒業年次のため記載なし <p>-----</p> <p>-----</p> <p>-----</p> <p>-----</p>

学部/委員会名		造形芸術学部 FD委員会
設置根拠		宝塚大学 ファカルティ・ディベロップメント委員会規程
構成員 (事務担当含む)	教員	高橋(委員長)・岩城・角南・吉田
	職員	会田・田中康・村野・山口

[1. 主な審議項目]

- ① 学生向けFD研修①「今日から使えるコミュニケーション力」
- ② 学生向けFD研修②「今日から使えるコミュニケーション力2 会話力をつける」
- ③ FD研修①「海外と日本・最新コミックの考察」
- ④ FD研修②「教職員と学生の適度な距離感とは？」

[2. 審議結果及び実施状況]

- ① 9月20日実施 講師 株式会社スプリングボード 代表取締役 足立晋平
- ② 12月12日実施 講師 登録キャリアコンサルタント 安藤ゆかり
- ③ 6月13日実施 講師 マンガ研究室 神澤孝宣
- ④ 10月17日実施 講師 教職教育研究室 岩城晶子

[3. 総括及び改善点]

- ・ 学部閉鎖最終年にあたり、学生に資する企画を優先し、学生向けFD研修を2回実施した。
- ・ 一昨年より実施している各研究室交流FD研修、今年度はマンガ研究室に依頼した。
- ・ 卒業制作が大詰めを迎える後期に実施したFD研修②は時宜を得た結果が出たと考える。

[4. 次年度に向けての取り組み]

- ・ 学部の最終卒業年次のため記載なし

学部/委員会名		造形芸術学部 図書委員会
設置根拠		—
構成員 <small>(事務担当含む)</small>	教員	沼田(委員長)・葛佐・森口
	職員	月本・中澤・川上・松村

<p>[1. 主な審議項目]</p> <p>① 教員・学生選書ツアーの実施について</p> <p>② 絵本・児童書選書について</p> <p>-----</p> <p>-----</p> <p>-----</p> <p>-----</p> <p>-----</p>
<p>[2. 審議結果及び実施状況]</p> <p>① 丸善&ジュンク堂書店にて教員と学生の合同による選書ツアーを行った。(4月18日)</p> <p>② 絵本・児童書をテーマとした選書を行った。(11月28日)</p> <p>-----</p> <p>-----</p> <p>-----</p> <p>-----</p> <p>-----</p>
<p>[3. 総括及び改善点]</p> <ul style="list-style-type: none"> 造形学部の学生、教員における制作・研究資料の充実が図れた。 絵本・児童書の追加は地域連携の一環として今後も活用できると思われる。 造形学部の図書資料の扱いやその利用法についての検討が必要。 <p>-----</p> <p>-----</p> <p>-----</p> <p>-----</p>
<p>[4. 次年度に向けての取り組み]</p> <ul style="list-style-type: none"> 学部の最終卒業年次のため記載なし <p>-----</p> <p>-----</p> <p>-----</p> <p>-----</p>

学部/委員会名		造形芸術学部 展示作業委員会
設置根拠		—
構成員 (事務担当含む)	教員	岡田(委員長)・ 児玉・水上・林・上田・神澤・北川
	職員	北・田中和・竹内

[1. 主な審議項目]

- ① 卒業制作展の運営方法
- ② 卒業制作展のビジュアルイメージを学内公募で行う
- ③ 本館エントランス・ギャラリートライアングルの展示

[2. 審議結果及び実施状況]

- ① 前期からビジュアルイメージ制作を開始し、後期中頃に完成。年内にポスター・DMを入稿・封入作業。
後期から展示内容をヒアリングして図面に落とし込み。学内集荷・搬入・展示・会期・搬出の運営。
- ② 前期後半にビジュアルイメージの学内公募を周知。後期初めに選定する予定で進めましたが、周知する時期が遅く学生からの作品が集まらなかった。
- ③ 本館エントランスで研究生の日本画展示。産官学連携事業で学生がデザインしたTシャツの展示。ギャラリートライアングルで写真研究室の学生の個展。

[3. 総括及び改善点]

- ・ 運営については、問題なく進行することができました。
- ・ 公募にする決定が遅く、学生に周知する機会が少なかったこと。学生の卒展に対する意識を早い時期から持たせることが必要。
- ・ 造形展の出展作品をより空間を活かした方法で展示することで学生本人の卒制作品へのインスピレーションの手がかりになったこと。

[4. 次年度に向けての取組み]

- ・ 学部の最終卒業年次のため記載なし

学部/委員会名		造形芸術学部 紀要編集委員会
設置根拠		—
構成員 (事務担当含む)	教員	岩城(委員長)・北澤・木村・伊佐
	職員	月本

[1. 主な審議項目]

- ① 宝塚大学紀要Artes第32号発刊にともなう投稿規程等の確認
- ② 宝塚大学紀要Artes第32号 投稿論文の査読について
- ③ 宝塚大学紀要Artes第32号 投稿論文の掲載可否について

[2. 審議結果及び実施状況]

- ① 大学紀要Artes第32号の投稿規程については前年度から特に変更なし
- ② 大学紀要Artes第32号に投稿された論文については、1本につき2名の査読者を選定・依頼した。
- ③ 大学紀要Artes第32号に投稿された論文10本(一部作品投稿)を査読した結果、採用5本、修正意見付き採用5本となった。

[3. 総括及び改善点]

- ・ 本学部の紀要投稿規程は看護学部の投稿規程を基礎に作られたものであるため、文献以外の引用(例えば絵画作品、映像作品など)の記載方法が不明確であった。芸術分野の論文の投稿規程を参考にし改善する必要がみられた。
- ・ 前項にも関連するが、投稿論文の査読において、論文の主題や専門性に合った査読者を学内で選定することには限界があり、必要に応じて外部査読者を選定・依頼する必要が感じられた。

[4. 次年度に向けての取組み]

- ・ 学部の最終卒業年次のため記載なし

学部/委員会名		東京メディア芸術学部 教務委員会
設置根拠		東京メディア芸術学部 教務委員会規程
構成員 (事務担当含む)	教員	近藤(委員長)・北見・竹内・渡邊・杉山・仁藤・篠田・橋口・梁・石川・川上・中里
	職員	高山(副委員長)・岩脇・登坂・村田・大和

<p>[1. 主な審議項目]</p> <p>① ゼミ新制度に関する設計</p> <p>② 今後の数年にわたるカリキュラム改編計画</p> <p>③ 「領域」制度の変更</p> <p>④ GPA規程の新設</p> <p>⑤ 2019年度シラバス作成の検証</p> <p>⑥ 高等教育負担軽減新制度に関する諸案件の制度設計</p>
<p>[2. 審議結果及び実施状況]</p> <p>① 2018年度入学者の2年次進級にあたりゼミ制とするため、制度の細部設計を行い暫定的に決定。</p> <p>② 第一次段階として夏季に科目担当者にアンケート調査。結果を基に2019年度カリキュラム策定。</p> <p>③ 従来の領域別教育体制から、本来の学位プログラムとしての学科教育の強化を確認。</p> <p>④ 学生の学修成果を客観的に把握するためのGPA制度について細部を審議、2019年度より施行。</p> <p>⑤ シラバス検証小委員会を組織し、シラバスの記載内容をチェック。全科目に検証を加えた。</p> <p>⑥ 新政策の開始予定につき情報を収集、必要な制度等の設計に取りかかる。(次年度継続検討)</p>
<p>[3. 総括及び改善点]</p> <ul style="list-style-type: none"> 学生が多様化に伴い学位プログラムとしての教育体制を変化させなければならない段階であり、従来の領域制の見直し、ゼミ新制度の導入といった大きな変更を議論し、決定を行った。その意味で、例年に比して、審議検討する案件、審議内容ともに密度の濃いものとなった。 教学面を統括する目的で設置された「教学企画室」と連携して新制度の創出や情報の収集を行ったが、当委員会での検証・審議にあたり出席委員が均質的に情報や知識を有しているわけではなく、議論のレベルに差が見られた。FDやSDを通じた構成員のスキル向上が求められる。 上述の理由から、一部構成員に業務的負荷が生じており、是正乃至は報奨が必要と認められる。
<p>[4. 次年度に向けての取組み]</p> <ul style="list-style-type: none"> 高大接続改革の完成が2021年度に迫っており、2021年度入学者より適用する教育課程(カリキュラム)について教学企画室と連携しながら抜本的な改編を行う。2021年度入学者の学生募集は2020年度に行われることから、募集に反映させるため2019年度後半にはカリキュラム案を完成させる。 高等教育負担軽減新制度の本格的導入が開始されるため、必要な諸制度を施行する。 新たに導入するGPA制度、その他の指標を用いて、学修成果の把握とその改善に取り組む。 学修成果、教育成果を蓄積するポートフォリオシステムの導入を教学企画室と連携して検討する。

学部/委員会名		東京メディア芸術学部 学生委員会
設置根拠		東京メディア芸術学部 学生委員会規程
構成員 (事務担当含む)	教員	橋口(委員長)・近藤・井上・北見・杉山・竹内・渡邊・仁藤・篠田・梁垂・石川・川上・中里
	職員	大和(副委員長)・登坂・高山・村田・大和・岩脇

[1. 主な審議項目]

- ① ゼミ制度に関する事項
- ② 宝塚大学奨学金制度 採用候補者の決定
- ③ 要支援学生対応小委員会の設置と委員の指名

[2. 審議結果及び実施状況]

- ① 新たに開始されるゼミ制度の制度設計を行い、1年次生のゼミ選択面談を実施した。
- ② 2018年度宝塚大学奨学金の採用候補者を決定し、宝塚大学奨学金委員会へ推薦した。
- ③ 修学上の特別な支援を要する学生への対応策を専門に検討する小委員会を設置し、委員を指名した。

[3. 総括及び改善点]

- ・ 今年度入学者よりゼミ制度が適用されることに伴い、制度設計及び具体的なゼミ選択面談の実施に注力した年度であった。
- ・ 入学者数の増加に伴って学生は一層多様化しており、特にこれまでの枠組みでは対応が難しい事例について専門の小委員会を設置できたことは、今後の学修指導上大きな意味を持つと言える。
- ・ 一方で教務委員会と合同開催のため、月一度の開催では各事項について十分な審議時間を確保することが難しい局面も見られた。

[4. 次年度に向けての取組み]

- ・ 要支援学生対応小委員会を中心として合理的配慮に関するガイドラインを策定する。
- ・ 学生の課外活動に関連し、表彰制度の実質化を進める。
- ・ 学生の福利厚生や学生団体の指導に関する検討を進める。

学部/委員会名		東京メディア芸術学部 入試企画委員会
設置根拠		東京メディア芸術学部 入試企画委員会規程
構成員 (事務担当含む)	教員	吉岡(委員長)・古瀬・櫻木・渡邊・中村・市野・芦谷・高田・李・増田・中里・石川・和田
	職員	金澤(副委員長)・佐藤・宇部・宮幸・成澤・森岡

<p>[1. 主な審議項目]</p> <p>① 2020年度留学生入試の出願基準</p> <p>② 留学生入試面接での日本語能力評価</p> <p>③ 2021年度以降の入試方針</p> <p>④ スカラシップ評価基準</p>
<p>[2. 審議結果及び実施状況]</p> <p>① JLPT「N2以上取得」もしくはEJU「220点以上」という出願資格を設ける。</p> <p>② ルーブリックを用いた評価表を定め、入試時に判定を実施。</p> <p>③ 総合型選抜、学校推薦型選抜、一般選抜の入試方針を決定。HPで掲載予定。</p> <p>④ 給与所得、成績によるスカラシップ評価基準を定め、入試時に判定を実施。</p>
<p>[3. 総括及び改善点]</p> <ul style="list-style-type: none"> 入学後に問題となる留学生の日本語能力に着目した入試制度の整備を進めることが出来た。 方針を提示する必要がある2021年度入試について、外的要因で未決定な部分がある。 入学者130名は達成圏内である。 日本人の入学者増のための施策が必要である。
<p>[4. 次年度に向けての取組み]</p> <ul style="list-style-type: none"> 2021年度入試の仕組み作り 日本人受験者を増やすための施策検討 学部HPの改変 高校出張授業の費用対効果検証

学部/委員会名		東京メディア芸術学部 就職支援委員会
設置根拠		東京メディア芸術学部 就職支援委員会規程
構成員	教員	井上(委員長)・市野・近藤・高田・仁藤・李・川上・和田
	職員	谷口(副委員長)・名雪・佐藤・小川・梁

[1. 主な審議項目]

- ① 2017年度就職支援活動の総括と2018年度就職支援にかかわる事業計画の作成
- ② 留学生の就職支援に必要な教育面におけるサポートについて(通年で適宜協議していく)
- ③ ポートフォリオ・アーカイブ計画の問題点の洗い出しと対応策について
- ④ 2019卒生の就職状況、2020卒(3年生)の個別面談の結果報告及び学生個別情報の共有
- ⑤ ポートフォリオ制作に役立つ履修科目モデル案を作成し、学生に提示することについて
- ⑥ 2年次後期のキャリア支援が手薄になることへの対策

[2. 審議結果及び実施状況]

- ① 進路内定率が2年連続9割台、就職支援委員会を核にした教職員間の学生情報の共有の成果
- ② 留学生アンケート調査及び個人面談報告より、問題点・課題を共有し対応策を継続協議
- ③ ガイダンス時の領域別面談、図書館、エントランスホールへの展示会の実施
- ④ 教員、就職課、学務課が個別に持つ学生情報を共有することで、具体的な支援につながっている
- ⑤ 授業で習得できるPCスキルの一覧をまとめ、志望業界や職種選び及びPF制作に役立てる
- ⑥ キャリアデザインⅡを新設し、先輩に学ぶ業界・職業理解をするための授業開講が決定

[3. 総括及び改善点]

- ・ 就業意識を高め、自発的に就活できる層を増やしていくため、キャリア教育課程との連携を行なう
- ・ クリエイティブ職で必須のポートフォリオ・アーカイブ計画の実質化と学生・教員への啓蒙促進
- ・ 留学生アンケート調査及び委員会協議の経緯を踏まえ、2年次以降のサポート体制を決める
- ・ 産学連携AJPF(アニメ人材パートナーズフォーラム)の継続の検討(2019年度は継続せず)

[4. 次年度に向けての取組み]

- ・ 3年連続、就職内定率9割を目指した取組み
- ・ 2年次留学生へのサポート(個別面談の実施、N1取得の促進とバックアップ等)
- ・ ポートフォリオ・アーカイブ計画の実質・向上化
- ・ 改訂した初年次教育からキャリア系授業と就職支援室による学生サポートの効果の検証
- ・ 学生増に伴う就職支援室専門職員の増員、面談スペースの確保等

学部/委員会名		東京メディア芸術学部 IR推進委員会
設置根拠		東京メディア芸術学部 IR推進委員会規程
構成員 (事務担当含む)	教員	篠田(委員長)・渡邊・橋口
	職員	高山(副委員長)・大和

<p>[1. 主な審議項目]</p> <p>① アセスメントポリシーの策定</p> <p>② FD・SD活動の企画立案と実施</p> <p>③ 学生による授業評価アンケート内容の改善</p> <p>④ 学修行動調査の企画立案と実施</p> <p>⑤ 卒業生調査の企画立案と実施</p>
<p>[2. 審議結果及び実施状況]</p> <p>① 本学部のアセスメントポリシーについて検討を加え、決定。</p> <p>② FD活動が所管業務となっており、通算4回の研修会と1回の授業見学会及び研究会を実施。</p> <p>③ 従来の授業評価アンケートを大幅に見直した。2019年度より導入を決定。</p> <p>④ 従来の学修動向アンケートを見直し、学年毎に質問項目を変えた学修行動調査を実施。</p> <p>⑤ 各種アンケート結果をもとにカリキュラム改編について議論。教授会等に情報を提供。</p>
<p>[3. 総括及び改善点]</p> <ul style="list-style-type: none"> IRの専門知識を有する教員が加わり、IR活動の本格的な進展が見られた。学部内に散在する各種データを整理し、どのように活用していくべきか、議論が端緒についた。 IRの活動がなぜ必要なのか、FD活動がなぜ必要なのか、その理解度について、各教職員の間で差が見られることは否めない。委員会として、それらの必要性や効果についての情報発信を強化する必要性を感じている。 データが各部局に散在しており、その集約については学部全体で可能な限り改善すべきである。
<p>[4. 次年度に向けての取組み]</p> <ul style="list-style-type: none"> IRデータは学生の教育活動に還元されてこそ意味があることは論を俟たない。現状はデータの所在把握、収集が開始された段階である。今後、経年の変化を分析し、教授会・各委員会や部局に情報を提供、教育内容の改善に資するものとしたい。 各種調査の着実な履行と分析を強化する。 2021年度入学者適用カリキュラムの抜本的改編が予定されており、IR情報を用いて協力する。

学部/委員会名		看護学部 教務委員会
設置根拠		看護学部 教務委員会規程
構成員 (事務担当含む)	教員	竹村(委員長)・上山・平野・森本・西田・松田
	職員	藤田・松本

[1. 主な審議項目]

- ① 学生在籍・異動に関する事項
- ② 科目履修および単位認定に関する事項
- ③ 進級および卒業認定に関する事項
- ④ 学年暦および時間割に関する事項
- ⑤ シラバス、定期試験、授業評価に関する事項
- ⑥ ガイダンスに関する事項
- ⑦ その他(学修環境に関する事項)

[2. 審議結果及び実施状況]

- ① 審議後承認された結果、休学:3年2名・4年3名、退学:1年1名・2年1名・3年3名・4年3名、復学:3名
- ② 助産学専攻科2018年度生、看護学部2014年～2018年度入学生、前期、後期、通年科目単位認定
- ③ 助産学専攻科2018年度生9名、2013年度入学生1名、2014年度入学生3名、2015年度入学生89名卒業認定
- ④ 審議後承認された
- ⑤ シラバス記入要領に沿って記入されているかチェック表に基づき確認を行った。アクティブラーニング、成績評価、学修内容やフィードバックについて明記されているか確認した。
- ⑥ 修学に必要な内容及び時間配分について企画・実行した。
- ⑦ 502教室環境に対する1年次生のアンケートを実施し、その結果を踏まえて、照明工事の計画をし予算化した。
授業評価アンケートの質問項目を再考し、2019年度前期より実施した。

[3. 総括及び改善点]

- ・ 授業評価に関するアンケート項目・内容について、担当科目教員に結果を提示し、改善点があればその策を具体的に提示してもらう必要がある。
- ・ 電子書籍の授業および実習への活用について検討を継続していく必要がある。
- ・ 1日の定期試験科目の配置について今後検討が必要(学生負担への配慮)

[4. 次年度に向けての取組み]

- ・ 適切な成績評価方法の検討
- ・ GPA制度の活用について
- ・ アクティブ・ラーニングの積極的な導入
- ・ ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応を強化する
- ・ 教員の学生に対する学修支援を推進する

学部/委員会名		看護学部 学生委員会
設置根拠		看護学部 学生委員会規程
構成員 (事務担当含む)	教員	八田(委員長)・峯岸・大串・大江・前田・森脇・山内
	職員	藤田・岡崎

<p>[1. 主な審議項目]</p> <p>① (1) 学生の福利厚生に関する事項</p> <p>② (2) 学生の課外活動に関する事項</p> <p>③ (3) 学生相談に関する事項</p> <p>④ (4) 学生の健康管理に関する事項</p> <p>⑤ (5) 奨学金に関する事項</p>
<p>[2. 審議結果及び実施状況]</p> <p>① (1) ガイダンス(学生生活)、卒業パーティ、新入生歓迎会、学生自治会設立準備会開催</p> <p>② (2) サークル活動の活動状況の把握と新入生歓迎会での紹介</p> <p>③ (4) 感染症対策の注意喚起ポスター作製</p> <p>④ (5) 奨学金の学生選定</p> <p>⑤ (他) 保護者懇談会開催、同窓会設立準備ミーティング開催</p>
<p>[3. 総括及び改善点]</p> <ul style="list-style-type: none"> チューター制度の改善で学生生活の充実を図り、学生生活の悩みや問題点の解決に取り組む。 学生自治会設立に向けて、引き続き協議し、学生と共に活動内容や役割分担を考えていく。 教室の環境を改善するために、空調や観葉植物の配置などを要望した。 保護者懇談会、同窓会に関しては学生委員会から切り離れたほうが適切だと思われる。
<p>[4. 次年度に向けての取組み]</p> <ul style="list-style-type: none"> チューター制度を充実させるとともに、学生の縦の交流を図っていく。 自治会活動を支援する。引き続き協議し、競技大会、コンサート、「看護と芸術祭」などの活動。 を実施できるようサポートする。 サークル活動やレクレーションができる環境を整える。 学生動向調査を分析して課題を明らかにする。

学部/委員会名		看護学部 入試・広報委員会
設置根拠		看護学部 入試委員会規程
構成員 (事務担当含む)	教員	日高(委員長)・岩谷・澤田・竹村・小神野・西田・平野・中尾
	職員	中島・会田

[1. 主な審議項目]

- ① 平成30年度 看護学部 助産学専攻科 入学選考について(実施時期・内容、判定基準、合否判定)
- ② 平成30年度 看護学部 入学試験成績優秀者特待生制度について
- ③ 平成31年度実施 看護学部 総合型入試(仮)について(実施時期・内容、判定基準、合否判定)
- ④ 入学選考の妥当性検証について
- ⑤ 平成32年度 看護学部入学者選抜に係る予告について
- ⑥ 平成32年度 看護学部入学者選抜における大学入学共通テストの導入検討について

[2. 審議結果及び実施状況]

- ① 今年度は入学者105名を目途に歩留率を検討しながら各入学選考ごとに合格者を決定した。
- ② 一般入学選考第1期の成績優秀者8名に対して学費を免除する特待生制度を開始した。
- ③ 学生のリーダーとなり得る人材を選抜するために、平成31年度から総合型入試を実施する。
- ④ 過去5年の入試成績、GPA、留年・退学率を算出して入学選考の妥当性を検証した。
- ⑤ 平成32年度の入学者選抜に係る予告については、遅くとも5月の連休明けまでに公表する。
- ⑥ 大学入学共通テストについて、文科省などの関係機関に対して正式に問い合わせをする。

[3. 総括及び改善点]

- ・ 平成30年の入学選考について、市場環境の急激な変化により志願者を減らす結果となった。
- ・ 特待生制度については年度途中から急遽制度設計をしたため、広報が不十分であった。
- ・ 平成32年度 入学者選抜に係る予告については検討を開始する時期が遅れてしまった。
- ・ 大学入学共通テストについて、公開されている情報が少ないため正式な問い合わせが必要である。
- ・ データに基づいて議論をすることで論点が整理されて前向きな話し合いができた。

[4. 次年度に向けての取組み]

- ・ 平成32年度入学者選抜に係る予告について、遅くとも5月の連休明けまでに公表する。
- ・ 大学入学共通テストについて、論点を整理して議論を進め、結論を早めに公表する。
- ・ 次年度から実施する総合型入試について、選抜方法や判定基準などを検討する。
- ・ 市場環境の急激な変化は次年度も続く予想されるため、志願者確保の方策を検討する。
- ・ 高等学校との連携について、ターゲット校を設定して高大連携を強化する。

学部/委員会名		看護学部 国家試験対策委員会
設置根拠		看護学部 国家試験対策委員会規程
構成員 (事務担当含む)	教員	合田(委員長)・浮田・上田・大江・森本・瀬山・桧山・林・阪田
	職員	太田

〔1. 主な審議項目〕

- ① 国家試験受験生対象の模擬試験や対策講座、セミナーなどの教育企画と運営について
- ② 低学年(1～3年次生)対象の模擬試験や対策講座、セミナーなどの教育企画と運営について
- ③ 保護者を巻き込んだ国家試験対策の実施について
- ④ 国家試験受験に向けて学生が自主的かつ意欲的に学習するための環境整備について

〔2. 審議結果及び実施状況〕

① 新卒生および既卒生を対象とした9回の模擬試験および3種の対策講座を企画し運営した。学内教員による講座の他、2つの外部業者による講座(計49回)を企画、うち1つは低学力者の受講を必須とした。しかし、どの講座も欠席者や遅刻者が複数いたため、その対策を繰り返し審議した。ガイダンスの実施、年間スケジュールの配布・更新・掲示、学生で構成された国家試験対策係と協働した対策講座の運営、担当講師との講座内容の調整および学生情報の共有等の対策をおこなった。

② 低学年の学生への国家試験受験に向けた動機づけを重要課題とし、その方略を検討した。従来の専任教員による国家試験ガイダンスに加え、各学年1回以上の外部業者によるガイダンスと対策講座を新規導入した。さらに、現在の実力と課題を確認する機会として適切な時期および業者の模擬試験を選定、実施した。

③ 国家試験対策の重要支援者に保護者を位置づけ、開学以来初めて国家試験受験生(新卒生、既卒生それぞれ)の保護者を対象とした国家試験対策保護者説明会(ガイダンスおよび個人面談)を計2回開催した。また、2回/年、保護者宛の文書を送付し、国家試験対策の方針や国家試験関連の年間スケジュールを通知するとともに、協力要請をおこなった。

④ 各学年に国家試験対策係(学生組織)を置き、係の学生が学年をまたいで交流できる場(交流会)を提供することで、国家試験に向けた学生主体の活動促進を目指した。先輩から後輩への学習方法等のアドバイスによって、低学年の学生は国家試験がより身近なものとなり、学習意欲を高めた。また、上記交流会に国家試験委員会の教員が同席し、学習方法をアドバイスすることでLINEアプリを使った学習が定着し、毎日自動送信される国家試験問題を毎日1問ずつ解く1、2年生も散見するようになった。
4年次生では、原則、全ての活動において国家試験対策係と連携協働して運営する形式をとった。例えば、対策講座の設営や模擬試験の配布、対策講座前のLINEによる一斉告知、個別参加の促し等は継続的に学生主体で実施した。
国家試験受験者の経験を後輩に伝える場として、「ようこそ先輩」「教えて先輩」を計2回設けた。昨年度の課題をふまえて開催時期を早めたことで、受験生に早期から受験生であることの自覚と準備意識をもたせることができた。

[3. 総括及び改善点]

昨年度に比して対策講座、ガイダンスの出席率は上昇したものの、欠席者や遅刻者はなくなり、解決には至らなかった。国家試験の得点率をみると、対策講座やガイダンス、模擬試験の出席率が低い学生は得点率も低い傾向にあり、全員出席、開始時の着席厳守は必須である。今年度の取り組みをふまえつつ、出席への強い動機づけや出席管理システムの活用などを検討する。

低学年対象のガイダンスでは、国家試験の概要を理解するだけでなく、低学年からの国家試験対策の方法(スケジュールの立て方、学習ツールの紹介など)を具体的に知る機会となった。また、全学年に「解剖ノート」(ワークブック)を配布。看護の学習の基礎となる解剖生理の知識を低学年から継続的に身につけられるよう支援するとともに、「解剖ノート」を用いた対策講座を実施。

- 解剖生理と看護の関連や国家試験問題の出題傾向を教授することで、日々の学習が国家試験に繋がっていることを強く認識する好機となった。ただし、低学年においても欠席者の対応に追われ、未だに「解剖ノート」を受け取っていない学生もいる。国家試験は自らのライセンスを自らの責任において取得するという意識を高め、学生の主体的な学習を促しつつも、一定の強制力をもった支援が必要であると考え。

保護者会参加者からは好評を得たものの、参加者は計20名と非常に少なく訴求効果は低かった。今後は、より早期から保護者会の企画および案内をおこなうとともに、保護者が参加しやすい日程を考慮することが重要である。また、模擬試験の結果を送付するなど、保護者も学習プロセスを把握し参加できる仕組みを設け、保護者の意識変革も同様におこなうことが望ましい。

一部の学生は、国家試験に対する意識が高いものの、クラス全体で見るとその温度差は大きく、今後は、クラス全体の雰囲気づくりや意識改革が急務である。模擬試験の結果をふまえて、自分の実力を全国レベルで確認し、具体的な目標設定と達成度評価を循環させることができるような仕掛けを作らなければならない。とりわけ模試等の推移をみると、本学の学生の課題は必修問題に顕著に現れている。ボーダーラインに到達しない学生が直前の模試まで多数いる実態は、本学における学生の学びの質的改善の必要性を強く示している。日々の学びと国家試験を結び付け、主体的に自らの将来を切り拓いていくような学生を育てたい。そのためには、日々の学習の中で折に触れて国家試験を意識できるよう教授方法を取り入れ、全教職員で一丸となって国家試験対策に取り組むことが不可欠である。

[4. 次年度に向けての取組み]

- ガイダンス、対策講座、模擬試験への参加率向上のためのシステムづくり
- 保護者を巻き込んだ国家試験対策の強化
- 国家試験に向けた学生の主体的学習を促進するための教育方法の再検討
- 意識や意欲の高い学生の登用による戦略的なクラス運営

学部/委員会名		看護学部 実習委員会
設置根拠		看護学部 実習委員会規程
構成員 (事務担当含む)	教員	山本(委員長)・尾ノ井・合田・美王・梅川・大串・瀬山・堀
	職員	谷口

[1. 主な審議項目]

- ① 学長指示による3年生の分野別臨地実習期間を短縮化について
- ② 2019年度の総合実習(4年生)の見直しについて
- ③ 実習要綱の「個人情報の適切な取り扱い・事故の予防と対応」の見直しについて
- ④ ユニフォームについて
- ⑤ 実習記録の保管について

[2. 審議結果及び実施状況]

- ① 分野別臨地実習期間は、2018年度においては2018年10月から2019年5月まで、2019年度においては2019年度から2020年3月までに短縮できる予定である。
- ② 2019年度より総合看護学実習の内容を病棟管理実習・地域連携実習から複数患者受け持ち実習・看護管理実習に変更する。
- ③ 「個人情報の取り扱い」については内容をより明確に変更した。「事故の予防と対応」については、「インシデント・アクシデント・ハラスメントの予防と対応」に変更するとともに内容も見直した。
- ④ 現在のユニフォームは袖が長くカフス部が垂れ下がる、生地が薄い下着が移るので、現在のユニフォームの形を維持しつつ改良中である。
- ⑤ 実習記録の保管場所については事務局の協力のもと確保できた。保管期間については教務委員会の議題として上申している。

[3. 総括及び改善点]

- 4月の時点で、3か月後の総合実習の施設数が足りない・約9か月に渡り行っていた分野別臨地実習の期間を6か月に短縮するようとの指示があるなどの大きな課題山積の一年であった。しかし、実習委員会のメンバー各自の努力と相互の協力により、課題を解決していくことができた。
- 実習委員会の議事内容の周知を目的として、実習委員会担当の教員が実習等で不在の場合は、同分野の教員を代理とするように改善する。

[4. 次年度に向けての取組み]

- ・ 分野別臨地実習配置で、1グループ10名単位にしてインターバルを確保する。
- ・ 実習施設連絡協議会の開催日を、早期に実習施設に連絡し参加施設数を増やす。
- ・ 個人情報の取り扱いの適正化とSNSなどへの投稿禁止を徹底する。
- ・ 学生の実習態度の是正する。

学部/委員会名		看護学部 キャリア支援委員会
設置根拠		看護学部 キャリア支援委員会規程
構成員 (事務担当含む)	教員	峯岸(委員長)・美王・梅川・松山
	職員	太田

[1. 主な審議項目]	
①	2018年7月 卒後1年目生対象「シャトル研修A」について
②	2018年9月 1年次生対象、基礎看護学実習Ⅰ終了後「なりたい看護師像」について
③	2018年9月 3年次生対象「就職活動準備の心がまえ」(株)マイナビによる講座について
④	2018年9月 3年次生対象「施設(就職)説明会」について
⑤	2018年12月 卒後1・2年目生対象「シャトル研修B」について
⑥	2018年12月 3年次生対象「履歴書・面接対策講座」(株)マイナビによる講座について
⑦	2019年3月 2年次生対象、基礎看護学実習Ⅱ終了後「社会人基礎力」について
[2. 審議結果及び実施状況]	
①	「シャトル研修A」には卒後1年目生44名が出席した。ストレスへの対処について講義とGWを行なった。
②	「なりたい看護師像」では、初めての病院実習で出会った看護師の言動から、自分がめざす看護師像をイメージし、自分の課題としてとらえることができた。全員出席。
③	「就職活動準備の心構え」では、77名が出席し、社会の変化により看護師へのニーズが変化してきていること、学生はそれに対応できる能力が求められることを講義された。
④	「施設(就職)説明会」では、15施設34名様に参加されて説明をいただいた。3年次生の出席は73名。
⑤	「シャトル研修B」では、「アサーティブトレーニング」の研修を行なった。出席者21名(うち2年目1名)。
⑥	「履歴書・面接対策講座」では、文章および口頭での自己PRのポイントについて説明があった。出席者約50名。実習での体験による学びの具体的な説明ができることの必要性が強調された。
⑦	「社会人基礎力について」では、経済産業省が示した枠組みに沿って、実習の場(看護現場)で求められる基礎力としての具体的な行動をあげ、実習中の学生の行動の振り返りと、課題を明らかにさせた。出席者65名。
[3. 総括及び改善点]	
1)	近年、社会の変化に伴い、看護師ニーズが変化している。その内容は①看護学部生の増加(とくに関西地区で著しい)②離職率の減少による採用人数の減少 ③多職種との連携ができる能力が求められる ④地域包括ケアシステムの導入により、高い技術力とアセスメント力が必要となっている、などである。このため、希望の施設に就職することが年々難しくなっている。この状況に対応するため、直接就職に関するイベントは、前年度よりも前倒しで行なった。3年次生の5~8割程度は主体的に参加していたが、さらなる前倒しと100%の参加へ向かって進める必要があると考える。
2)	就職試験では、実習やボランティア活動の経験から、学生の資質・可能性を見出そうとするような質問『何をやったかより、なぜ/どのように取り組んだか』が増えている。これに答え、説明できるためにはまず、実際に実習目標を達成する行動ができていること、次いでそれを言語表現できる能力が必要なので、最初の実習から真剣に取り組むよう学生に訴えていく。
[4. 次年度に向けての取組み]	
1)	「就職活動準備の心構え(就職スタートアップ講座)」は、3年次の5月中旬に実施する。夏休み中のインターンシップ参加を促進するためである。
2)	「施設(就職)説明会」は、今年度同様、実習開始を目前とした9月中旬に実施する。
3)	「履歴書・面接対策講座」は、実習開始前(9月中旬ごろ)に実施する。
4)	「シャトル研修A」は今年度同様7月初旬に実施する。
5)	「シャトル研修B」は次年度は、11月中で、卒後2年目生も関心をもてるテーマで行なう。
6)	授業科目「キャリア教育Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ」との連携または住み分けを明確にしていく必要がある。

学部/委員会名		看護学部 FD委員会
設置根拠		看護学部 FD委員会規程
構成員 (事務担当含む)	教員	浮田(委員長)・平野・箕越・堀
	職員	増田

[1. 主な審議項目]

- ① 教職員間協働の円滑化および職場の人間関係作り・コミュニケーション向上のための方策
- ② 教育力向上のための取組み
- ③ 学生の主体性を育成する学習方法とその評価の確立に向けての方策
- ④ 他大学や大学のFD関連組織によるセミナー等の活用
- ⑤ 「私立大学等改革総合支援事業」の理解とFD活動の推進

[2. 審議結果及び実施状況]

- ① 学長より講師の推薦を受け、職場におけるコミュニケーション改善のためのセミナーを3回実施。
- ② 3ポリシーと評価に関わるセミナーを実施した。
- ③ 公開授業の実施に向け審議を繰り返し、本年度はFD委員による模擬的公開授業を実施した。
- ④ 関西における大学のFD組織の一員として活動、またFD情報を学内に配信した。
- ⑤ 事業の趣旨を理解し、随時必要なFDの取組みを実施するとともに、次年度の計画をした。

[3. 総括及び改善点]

- ・ FD委員長が9月末で退職、担当事務局員の交代など体制的に不安定であった。
- ・ 3ポリシーの取組みが整合性を欠いた。全体像を理解してFD計画を立てる必要があった。
- ・ 公開授業の審議を通して学生の学びの実態の重要性を委員会で共有した。
- ・ 看護学部の多様な職種の働き方を見据えたFDの進め方について今後の改善が求められる。
- ・ IRの視点からFD活動を再構築し、教学改善に直結する取組みを強化していく必要がある。

[4. 次年度に向けての取組み]

- ・ 次年度の重点課題は「学びの実態改善と教育力向上」と位置付ける。
- ・ 本年度試行的に実施した公開授業を推進力として教学改善方策を展望し具体化を進める。
- ・ IRや私立大学改革総合支援事業との関連性を踏まえてのFD活動を推進する。
- ・ 大学の直面する課題に敏感に、また構成員の成長が実感できる取組みとなるようにする。
- ・ 看護学部の実態を踏まえ働き方改革を意識しつつ、授業改革等の教学改善に力を集中する。

学部/委員会名		看護学部 カリキュラム委員会
設置根拠		看護学部 特別委員会 規程はない
構成員 (事務担当含む)	教員	澤田(委員長)・岩谷・竹村・峯岸・山本・八田・日高・巽・尾ノ井・合田・上山・浮田
	職員	藤田・会田

[1. 主な審議項目]

- ① 2020年度カリキュラム改正に向けての計画(申請までの計画)
- ② ディプロマポリシー・カリキュラムポリシーとの整合性の検討(問題点)
- ③ 本校の特徴(アートと看護の融合)を具体的な科目にするための検討
- ④ 全体的にスリム化したカリキュラムにするために、コア・カリキュラムと科目間の重複の整理
- ⑤ 科目担当者の見直し

[2. 審議結果及び実施状況]

- ① ディプロマポリシー・カリキュラムポリシーに沿った内容で検討を進めた。
 基礎分野の問題点(看護に必要な語学を選定し通年科目をなくし、セメスター制とした。)

メディア系の科目が多いため整理し、社会学やボランティア、人権に関する科目を追加した

伝統芸術は、後期も追加し、学生が選択するチャンスを増やした。キャリア教育Ⅲ・Ⅳを追加した。

専門基礎分野・専門分野の問題点(地域看護学・公衆衛生看護学に関する内容が少なく、科目を追加する)看護と芸術のコラボレーションを強調していくために、アロマやタクティルタッチを追加する。

人体構造機能論と病態治療学の内容を整理し、スリム化した。

専門科目は、演習科目が多いため整理し、科目名も統一した。コア・カリキュラムを参考に

災害看護とチーム医療論を追加した。4年間の知識の集大成として4年次に「看護の統合」を科目として

設定し、国試前に試験をする。本校の特徴である看護と芸術を充実させた。

治療環境とアメニティは1年・2年・3年と継続的に学べるよう特に強化をした。
- ② 基礎分野において担当者の見直しを行った。

[3. 総括及び改善点]

- ・ 基礎分野の科目は、本校の特徴(看護と芸術)を生かした科目を設定した。
- ・ 語学は、看護に必要な科目を設定しし通年科目を廃止し、セメスター制としスリム化した。
- ・ キャリア教育を各学年に設定し、学習意欲の向上や本校の特徴、キャリア形成を目指し強化した。
- ・ 全体的に3ポリシーやコア・カリキュラムにあったカリキュラムが作成でき最終段階に入った。

[4. 次年度に向けての取組み]

- ・ カリキュラム全体の科目担当者を決定する。
- ・ 新カリキュラムを文科省に事前相談する。
- ・ 申請書類の作成をし、理事会の承認を得る。

学部/委員会名		看護学部 図書委員会
設置根拠		看護学部 図書委員会規程
構成員 (事務担当含む)	教員	尾ノ井(委員長)
	職員	大田・月本・川久保

<p>[1. 主な審議項目]</p> <p>① ガイダンス(学生、新任教員)について</p> <p>② 図書選書(教員、学生)について</p> <p>③ 図書館設備環境の整備</p> <p>④ 梅田図書館内規について</p>	
<p>[2. 審議結果及び実施状況]</p> <p>① 新任教員ガイダンス方法の検討とCINAHL講習会参加者の増加の必要性について</p> <p>② 学生及び教員選書の時期の決定</p> <p>③ 図書館設備環境の整備について</p> <p>④ 宝塚大学付属図書館規程が平成23年4月1日以降改定されておらず、2019年4月宝塚図書館の活用についても決定していない現状から、現在図書館長(新宿キャンパス在籍)主導の元で検討中である。</p>	
<p>[3. 総括及び改善点]</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成31年度新任教員ガイダンスは4月26日CINAHL講習会と一緒に実施する。 暖房設備の設置、PC2台入れ替え、絵本コーナーの設置を行った。 学生選書(7月)教員選書は定期(7.11月)と随時選書を行う。 	
<p>[4. 次年度に向けての取組み]</p> <ul style="list-style-type: none"> 宝塚大学付属図書館規程により梅田図書館の位置づけや内容決定後、内規作成を行う。 図書館2階閲覧室を学習に利用する学生も多く、レイアウトの変更を検討中である。 	

学部/委員会名		看護学部
設置根拠		看護学部 研究倫理委員会規程
構成員 <small>(事務担当含む)</small>	教員	日高(委員長)・竹村・山本・上山・高橋(外部委員) 木原(外部委員)
	職員	阿部

<p>[1. 主な審議項目]</p> <p>① 研究倫理審査申請書の審査</p> <p>②</p> <p>③</p> <p>④</p> <p>⑤</p>
<p>[2. 審議結果及び実施状況]</p> <p>① 申請件数10件、承認件数6件、継続審議件数3件(残り1件は3月の委員会で審査予定)</p> <p>②</p> <p>③</p> <p>④</p> <p>⑤</p>
<p>[3. 総括及び改善点]</p> <ul style="list-style-type: none"> 申請件数は10件で例年並みの件数であった。また継続審議となった申請の中には、対象者が調査によって体調を崩してしまった場合の措置が見つからないケースであったり、研究を実施する機関に対して書面で研究の同意を得るのが難しい等の理由によるものであった。 条件付承認においても、一般的に研究倫理審査で要求される事項が抜けている申請が有り、審査する側も含めて、申請者にも研究倫理審査の基本事項を理解してもらう必要がある。
<p>[4. 次年度に向けての取組み]</p> <ul style="list-style-type: none"> 研究倫理審査委員会報告システムについて検討をする。 ICR-WEB以外にも委員及び申請者ともに研究倫理における基本事項についての学習機会について検討する。

学部/委員会名		看護学部 紀要編集委員会
設置根拠		看護学部 紀要編集委員会規程
構成員 (事務担当含む)	教員	巽 (委員長)・浮田・西田・上田・箕越
	職員	川久保・中西

<p>[1. 主な審議項目]</p> <p>① 今年度の募集から受理に関して</p> <p>② 原稿の査読体制と、委員会での体裁確認体制について</p> <p>③ DB収録手続き</p> <p>④ 著作権帰属の会告</p> <p>⑤ 宝塚大学看護学部の 投稿規程 と 査読要領の改訂</p> <p>⑥ 宝塚大学紀要での、個別論文以外の担当について</p>
<p>[2. 審議結果及び実施状況]</p> <p>① 本年度は4件の投稿があり、うち3件が査読終了し、受理され、印刷に回っている。</p> <p>② 査読は准教授以上の職位の教員8名に依頼し、体裁確認は委員で分担してを行った。</p> <p>③ Medical*Online、医学中央雑誌 には看護学部分の全文、JST には書誌情報のみ提供する。</p> <p>④ 著作権帰属会告文を投稿者に送ると共に看護学部HPに掲示し、当委員会に著作権が譲渡された。</p> <p>⑤ 投稿規程の改訂を、今年度の初めと、終わりの二回行い、査読要領も改訂した。</p> <p>⑥ 宝塚大学紀要で、昨年本委員会が担当した、表紙、奥付について本年も担当した。</p>
<p>[3. 総括及び改善点]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2回の持ち回り委員会を含めて14回委員会を開催し、論文3件が受理され、印刷注である。 ・ 昨年度開始したDB収録手続きを当学部の過年度分の論文まで可能にし、昨年度の論文を登録した。 ・ 昨年度開始した委員による論文の体裁確認体制を確立し、査読者の負担を減らした。 ・ 投稿者、査読者の負担軽減のため、文献検索法やレフェリーへのコメントの参考図書の例示を行った。 ・ 投稿規程の改訂により、委員会活動報告を掲載しやすくした。
<p>[4. 次年度に向けての取組み]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2年間で取り組んできたDB収録手続きと委員による論文の体裁確認体制を引き継ぐ。 ・ 学部の紀要編集委員会は、造形芸術学部と看護学部にはあるが、東京メディア芸術学部にはない。 ・ そもそも大学としての紀要編集委員会に関する規程がなく、4年前より紀要編集委員長が不在となった。 ・ 以上について、大学として検討が必要なことを、看護学部教授会に報告した。

学部/委員会名		看護学部 将来構想委員会
設置根拠		委員会規定なし
構成員 (事務担当含む)	教員	岩谷(委員長)・澤田・巽・八田・山本・竹村・上山・合田
	職員	無

<p>[1. 主な審議項目]</p> <p>① 学生の学習意欲の向上</p> <p>② 教員の教育意欲の向上</p> <p>③ 教育の質の向上</p> <p>④ 教育方針の周知</p>
<p>[2. 審議結果及び実施状況]</p> <p>① 学生のneeds調査、学則の見直し、学修環境の整備、シラバス記入方法変更</p> <p>② 教員のneeds調査、教員の増員、実習施設の集約化、授業の改善(授業参観)</p> <p>③ 入学生の質の向上、学生の学修成果の評価(アセスメントポリシー作成)、授業改善FD</p> <p>④ 看護学部の3ポリシーを作成、教授会で学内教員に3ポリシーの周知、非常勤講師会議を開催し、非常勤講師への周知</p>
<p>[3. 総括及び改善点]</p> <ul style="list-style-type: none"> 学生のneeds調査(学生委員会)、教員のneeds長さ(将来構想委員会)、履修規定の見直し(教務委員会)、教育環境の整備、シラバスを学生に解りやすく記入(教務委員会)、授業の改善・授業参観(FD委員会)については、関連委員会を通して実施の運びとなった。 教員の増員・実習施設の集約化については、学長に上申したが、予算を伴うものであり時間のかかる問題としてすぐには解答は出なかった。実習施設が多すぎるため、教員の数が不足し、実習指導に出る教員が疲弊してしまう現状である。実習施設が集約化できるまでは、教育の質を担保するためにも、教員の増員は必要である。 アセスメントポリシーに関しては、将来構想委員会で作成し、卒業年度生に実施した。 看護学部の3ポリシーは作成し、教授会で学内教員への周知を図った。非常勤講師には、非常勤講師会議にて説明し周知を図る。学生への周知が急ぎ必要である。
<p>[4. 次年度に向けての取組み]</p> <ul style="list-style-type: none"> 看護学部3ポリシーを学生に周知する。前期ガイダンスにて各学年に説明し周知を図る。 教員の増員に関しては、3月末で7名の教員が退職したため、大幅な教員不足状態となっている。早期に教員公募を出し、教員確保に努める必要がある。 <p>学修環境の整備に関しては、各教室の換気不足(空気長のCO2濃度が正常の2倍以上)が指摘されており、改善策を事務局に求めているが、何の回答もない状況である。CO₂濃度を正常に保たないと、学生の健康状態にも影響を及ぼす危険性がある。早急に対応する必要がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> 実習施設の集約化も早急に行い、実習における教育の平等化を図る必要がある。

学部/委員会名		看護学部 初年次教育ワーキンググループ
設置根拠		ナシ
構成員 (事務担当含む)	教員	巽(グループ長)・浮田・澤田・浮田・梅川・林
	職員	八田(康)

<p>[1. 主な審議項目]</p> <p>① 今後の「初年次プログラム」について</p> <p>② 2019年度のキャリア教育 I について</p> <p>③ 2018年度前期の初年次教育について</p> <p>④ 入学前教育について</p> <p>⑤ 2018年度後期「寺子屋」について</p> <p>⑥ 「リーディングスキルテスト(RST;読解力検定)」について</p>
<p>[2. 審議結果及び実施状況]</p> <p>① 入学時から学生に対して指導していくガイドラインを、教員の意思統一を視野に入れて検討した。</p> <p>② 立派な看護師となることを自分の意志で目指し持続的に学び続ける意欲と、展望を持たせる科目とする。</p> <p>③ 本年度は単位外の科目であったが、100%出席が26名、80%以上の出席が49名(累計)いた。</p> <p>④ 医療や看護等を広い視野でとらえ、学ぶモチベーションを高める課題を全入学予定者に課した。</p> <p>⑤ 30名程度の登録から始まり、少々人数が減ったが、キャリア委員会との共催講義なども開催した。</p> <p>⑥ RSTは20名が受験し、同種の機関全体の能力分布と比べても相対的に上位の結果であった。</p>
<p>[3. 総括及び改善点]</p> <ul style="list-style-type: none"> 12回のWGを開催した。□、浮田、八田(康)の3人で開始し、12月より上記のメンバーとなった。 キャリア教育の一科目で社会人基礎力などの基盤の教育・指導には限界がある。対応策として本学部の一年次生の科目全体の指導方針を「初年次プログラム」として検討し、全教職員への周知を目指す。 本学部の特徴となる「芸術」との関わりについて、意見交換した。
<p>[4. 次年度に向けての取組み]</p> <ul style="list-style-type: none"> 2019年度のキャリア教育では全体授業とgroup workで行い、中身を作っていく。今後、キャリア教育として、内容、テキストや授業資料などを整備していけば、小集団での取り組みも考えていく。 本年度は、教務委員会の下部組織の扱いであるが、教務委員はいなかった。次年度は昨年度同様、教務委員会の下部組織の委員長は、教務委員として連携することが望まれる。 全学生の読解力を把握するため、RSTを全員に実施する。

【東京メディア芸術学部】地域社会・地方自治体との連携活動・社会貢献

①

霞が関ビル竣工 50 周年イベント
デジタル掛け軸で演出(2018年4月)



②

東京オリンピック・パラリンピック 777 日前イベントに出展
(2018年6月)



③

「キッズエンターテインメントアワード」
映像と舞台照明で演出(2018年8月)



④

しいのき迎賓館(石川県金沢市) デジタル掛け軸で演出
(2018年8月)



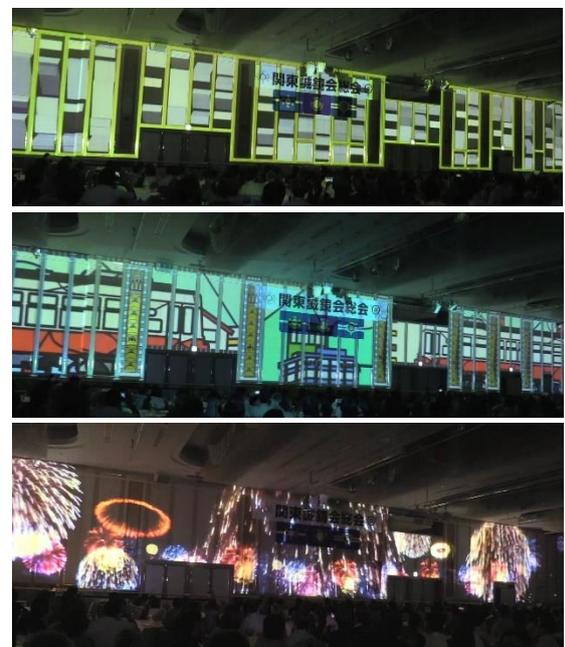
⑤

MMM ヘッドマーク制作のワークショップを
ひたちなか市那珂湊第一小学校で開催(2018年8月)



⑥

八幡高校(福岡県) 同窓会をプロジェク
ションマッピングで演出(2018年9月)



⑦

宝塚歌劇団 OG による舞台を演出
(2018年10月)



⑧

伊東市商店街に伊東商業高校とコラボした
トリックアートを設置 (2018年10月)



⑨

伊東市商店街「キンメの滝登り」
トリックアート設置 (2018年10月)



⑩

伊東市商店街 オリジナル包装紙をデザイン
(2018年10月)



⑪

イベント「新宿スポレク」出展
(2018年10月)



⑫

「第4回企業ボランティア・アワード」奨励賞受賞
(2018年11月)



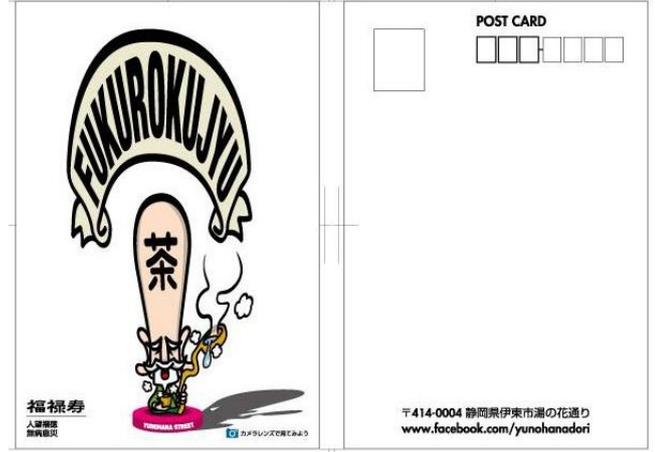
⑬

伊東市商店街「ソウダガツオ」トリックアート設置
(2018年11月)



⑭

伊東市商店街トリックアートを使用したフォト
コンテスト (2018年12月)



⑮

伊那バス株式会社 (長野県伊那市) ラッピングバスとロゴを
デザイン (2018年12月)



⑯

イタリアでのイベント出展の様子が雑誌に掲載
(2018年12月)



⑰

MINI のクリスマスパーティーをプロデュース
(2018年12月)



⑱

新宿区の広報誌に掲載される4コマ漫画を制作
(2018年6・9・12月、2019年3月)

おすすり! しんじゅく健康フレンズ!!

VOL.4 シニアになったらシフトチェンジ

しんじゅく健康フレンズが健康づくりのヒントを紹介します。
年齢とともに健康上の留意点は変化します。個人差はありますが、65歳を
目安に、健康の維持に向けて心掛けるポイントを生活習慣病予防から筋
力や心身の活力の低下予防にシフトチェンジして、健康長寿を目指しまし
よう。

【問合せ】健康づくり課健康づくり推進係(第2分庁舎分館1階) ☎(5273) 3047-☎(5273)3930へ。



19

新宿区役所エレベーターラッピングをデザイン

(2019年1月)



20

東京オリンピック・パラリンピック 500 日前イベント 出展

(2019年3月)



21

「桜まつり 2019」に似顔絵缶バッジ制作

ブースを出展 (2019年3月)



22

新宿区役所の外壁ラッピングをデザイン

(2019年3月)



【看護学部】 地域社会・地方自治体との連携活動・社会貢献

①

梅田東連合振興町会 清掃活動参加

(2018年4月-2019年3月)



⑤

助産学専攻科 プレパパ・プレママ教室

(2018年12月)



⑥

スペシャルキッズサポーターの集い in 大阪 2019
(2019年2月)



⑦

助産学専攻科 ベビーマッサージ教室
(2019年2月)

